

雪の音で

Vol.127

平成28年6月15日発行



巻頭言	「知見」と「教訓」をつないで	新潟県 土木部長 美寺寿人	1
特集	i-Construction(アイ・コンストラクション)について	国土交通省 北陸地方整備局 企画部 技術管理課・施工企画課	2
随想	夢にまで見たラウンドアバウト	若林和枝	8
寄稿文	台湾で慕われている日本人・八田與一 ーなぜ「日台の架け橋」と呼ばれるのかー	金沢ふるさと偉人館 学芸員 増山 仁	10
ちょっと気になる コーナー	火の国・熊本振興に向けて	中越トラベル(朝日交通(株)観光部) 取締役支配人 山崎康裕	14
お知らせ	平成28年度(第34回)北陸支部定時総会	事務局	16
お知らせ	平成27年度 独占禁止法等遵守に関する講習会	独占禁止法等の遵守に関する特別部会	18
お知らせ	第3回 まちづくりセミナー報告 ～まちなか再生・まちなか居住～	技術部会 都市計画委員会	19
お知らせ	「中学・高校出張 土木の魅力PR大作戦!」参加報告	技術部会 若手技術者ワーキンググループ	21
お知らせ	【製作秘話】建コンPR動画 第2弾!! 教えて!ケンコンさん Negicco Kaedeと巡る「まちの施設」 in 北陸	技術部会 広報部会	23
お知らせ	第2回 北陸橋梁保全会議 開催	北陸橋梁保全会議実行委員会	25
	北陸支部活動報告	事務局	26
	会員名簿 各部会・委員会委員名簿	事務局	38
	編集後記	齋藤浩幸	

[題字]

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙・裏表紙]

タイトル 達沢の不動滝
撮影地 福島県猪苗代町
撮影者 猪俣孝之

巻 頭 言

「知見」と「教訓」をつないで

新潟県 土木部長
美 寺 寿 人



本年4月1日に新潟県土木部長へ就任してから二週間後に、平成28年熊本地震が発生しました。このたびの地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆様には心からお見舞いを申し上げます。

本県土木部では地震が発生してから2日目に全国知事会の先遣隊として熊本県へ2名の職員を派遣したほか、被災建築物応急危険度判定士や被災宅地危険度判定士を派遣するなどの支援を行いました。5月からは土木技術職員3名を熊本県阿蘇地域振興局へ派遣し災害復旧業務の応援にあたっています。

平成16年に本県で発生した中越大震災の際には、今回被災された熊本県をはじめとする全国の自治体からの応援職員の派遣とともに、震災直後に兵庫県から教えていただいた阪神・淡路大震災の経験に基づく「知見」と「教訓」が、震災からの復旧・復興に大変役立ちました。今度は中越大震災からの復旧などを通じて本県が得た「知見」と「教訓」を熊本県へお伝えし、地震からの復旧などに役立てていただければと思っています。応援をいただいた側が次には応援する側になり、「知見」と「教訓」をつないでいくことがいかに重要かを再認識しているところです。

本県では、本年3月に「新潟県国土強靱化地域計画」を策定し、その強靱化の推進方針の柱の一つと

して、柔軟な危機管理体制の整備を掲げました。平時から国や県内外の自治体などとの広域的な応援・受援体制の充実強化を図り、中越大震災での受援、東日本大震災などへの応援の経験を、今後の応援・受援体制の充実強化に役立てていきたいと考えています。

強靱化の推進方針のもう一つの柱として地域経済の基盤強化等を掲げ、その施策として建設産業の振興を図ることとしています。熊本地震での早期の道路啓開などで建設産業が活躍したことからわかるように災害時の対応をはじめ、社会基盤の整備や老朽化対策、除雪など地域の安全・安心の確保に建設産業は重要な役割を果たしています。一方で本県の基幹産業でもある建設産業では担い手不足が課題であることから、本県では今年度から貴協会や建設業協会などを対象に、「新潟県建設産業マンパワーアップ総合支援事業」を開始しました。この中では本県独自の若者・女性入職促進PR助成にも取り組むこととしており、国の掲げる一億総活躍社会の実現につながっていくものと考えています。

最後に、県民のくらしと命を守る災害に強いふるさとづくりの推進に向けて、今後とも、貴協会の会員の皆様方の御支援と御協力をお願いするとともに、貴協会の益々の御発展を心から祈念します。

アイ・コンストラクション

i-Constructionについて

国土交通省 北陸地方整備局 企画部 技術管理課・施工企画課

はじめに

今後、我が国において生産年齢人口が減少することが予想されている中、建設分野において、生産性向上は避けられない課題となっています。国土交通省では、建設現場における生産性を向上させ、魅力ある建設現場を目指す新しい取組であるi-Construction（アイ・コンストラクション）を進めています。

本稿では、その取組についてご紹介します。

16年は「生産性革命元年」

平成27年11月24日に石井国土交通大臣が閣議後の記者会見で「測量・設計から、施工、更に管理に至る全プロセスにおいて、情報化を前提とした新基準を来年度より導入する」、「土工等の分野について抜本的な生産性向上を図ることで、全体として技能労働者一人あたりの生産性について、将来的に5割向上の可能性がある」また、「これらの取組をi-Constructionと名付け、一人ひとりの生産性を向上させ、企業の経営環境を改善し、建設現場に携わる人の賃金の水準の向上を図るなど魅力ある建設現場を目指していきたい」と表明されました。

この表明を受け、平成27年12月15日に「i-Construction委員会」（小宮山宏委員長）の第1回会合を開催し、平成28年4月11日、委員会における審議を踏まえ取りまとめられた報告書を、石井国土交通大臣に提出されました。



「i-Construction委員会」報告書の手交の様子

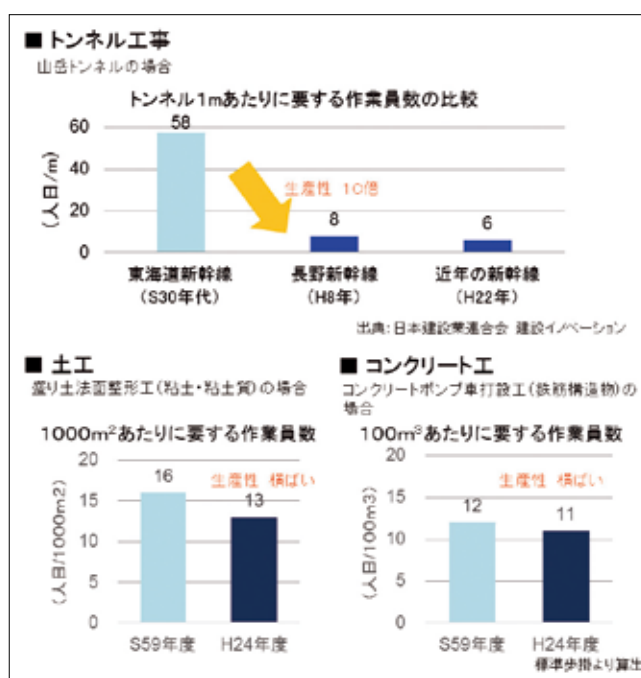
今こそ生産性向上に取り組むチャンス

バブル経済崩壊後の投資の減少局面では、建設投資が労働者の減少を上回り、ほぼ一貫して労働力過剰となり、省力化につながる建設現場の生産性向上が見送られてきました。建設業就労者では技能労働者約340万人のうち、約110万人の高齢者が10年間で離職の予想もされており、労働力過剰時代から労働力不足時代への変化が起こりつつあり、若年者の入職が少ない傾向となっています。

また、建設業の死傷者では全産業と比べて、2倍の死傷事故率（年間労働者の約0.5%（全産業約0.25%））となっています。

そのような中でトンネル工事は、約50年間で生産性を最大10倍に向上している一方、土工やコンクリート工などは、改善の余地が残っているといえます。（土工とコンクリート工で直轄工事の全技能労働者の約4割が占める）（生産性は、対米比で約8割）

したがって建設業界の世間からの評価が回復および安定的な経営環境が実現し始めている今こそ、抜本的な生産性向上に取り組む大きなチャンスであるといえます。



土木工事における生産性の変遷

建設現場の宿命を打ち破る

建設業界においては、「一品受注生産」「現地屋外生産」「労働集約型生産」など建設現場の特性があり、製造業等で進められてきた、「ライン生産方式」「セル生産方式」「自動化・ロボット化」などの生産性向上策に取り組む事が困難であると考えられてきました。

しかし、IoT (Internet of Things) の導入により、建設現場においても、「建設機械」と「設計データ」など「モノ」と「モノ」がつながります。その結果、ICT建機による3次元データを活用した施工・検査など自動化・ロボット化による生産性向上が可能となります。

よって、建設現場の宿命を打破するため、IoTを導入することで、製造業で行われているような生産性向上の取組を実現する必要があります。

i-Constructionを進めるための視点

1) 建設現場を最先端の工場へ

近年の衛生測位技術等の進展とICT化により、屋外の建設現場においても、ロボットとデータを活用した生産管理が実現できます。

2) 建設現場へ最先端のサプライチェーンマネジメントを導入

工場や現場における各工程が改善され、待ち時間などのロスが少なくなることから、建設生産システム全体の効率化、生産性向上が実現出来ます。

3) 建設現場の2つの「キセイ」の打破と継続的な「カイゼン」

イノベーションを阻害している書類による納品などの「規制」や年度末に工期を設定するなどの「既成概念」の打破することで、更なる建設現場の生産性向上が実現出来ます。

トップランナー施策の推進

i-Construction推進のための第一歩として、

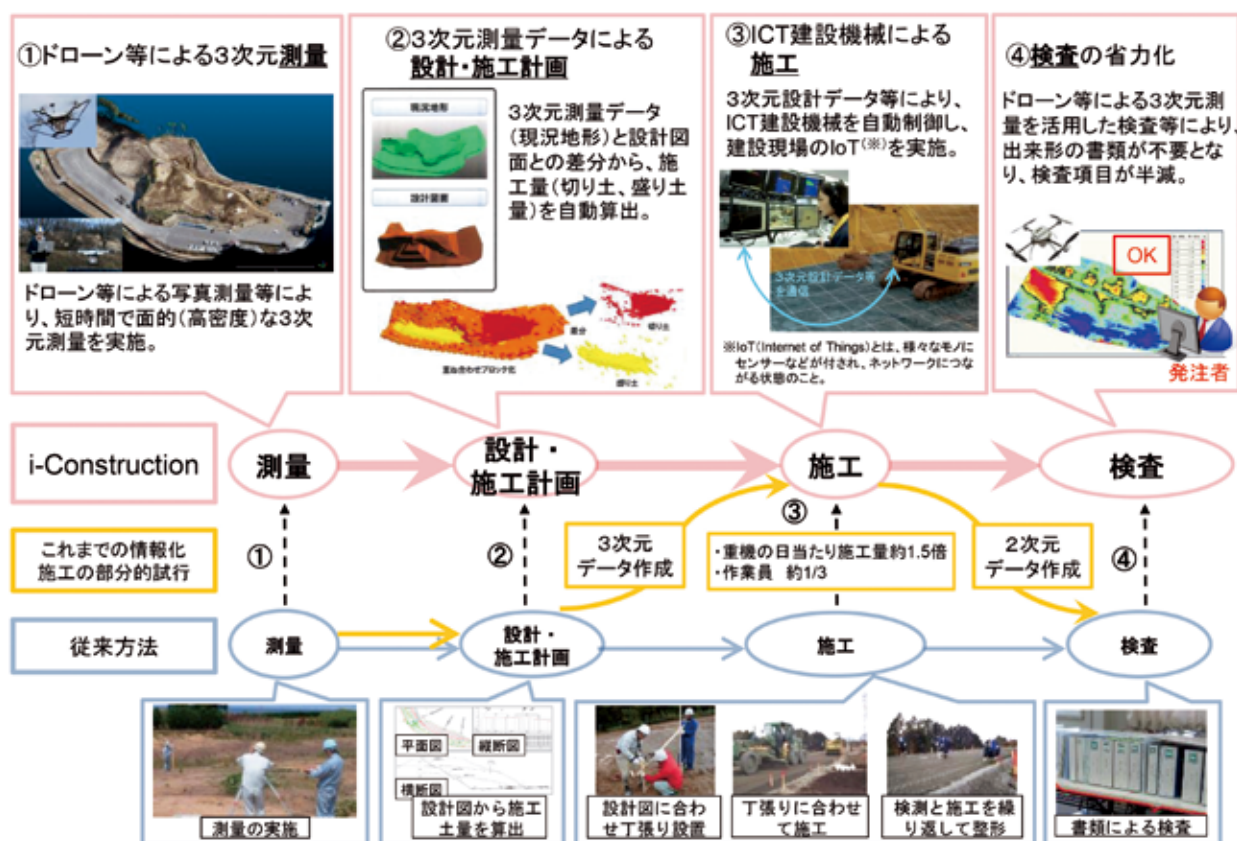
- ①ICTの全面的な活用 (ICT土工)
- ②全体最適の導入 (コンクリート工の規格の標準化等)
- ③施工時期の平準化をトップランナー施策として進めることとしています。

ここで得られた知見を踏まえ、ICTの全面的な活用では、土工から浚渫工等への拡大、全体最適の導入では、コンクリート工から他の工種への展開及び、施工時期の平準化では、書類の簡素化など他のキセイのカイゼンに広げ、全ての建設現場にi-Constructionの取組を浸透させていきます。

ICTの全面的な活用 (ICT土工)

これまでの、施工段階のみに着目してICTを導入してきましたが、i-Constructionでは調査・測量から設計、施工、検査、維持管理・更新までのあらゆる建設生産プロセスにおいてICTを全面的に導入します。

ICTの全面的な活用 (ICT土工) の概念図



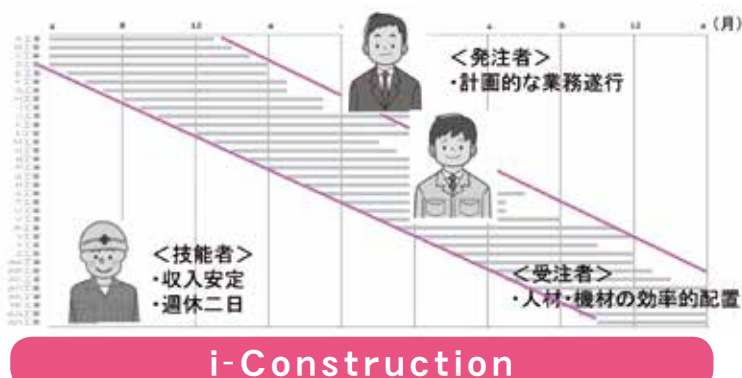
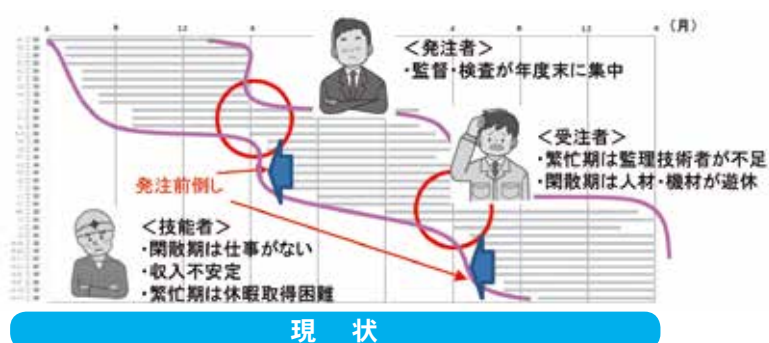
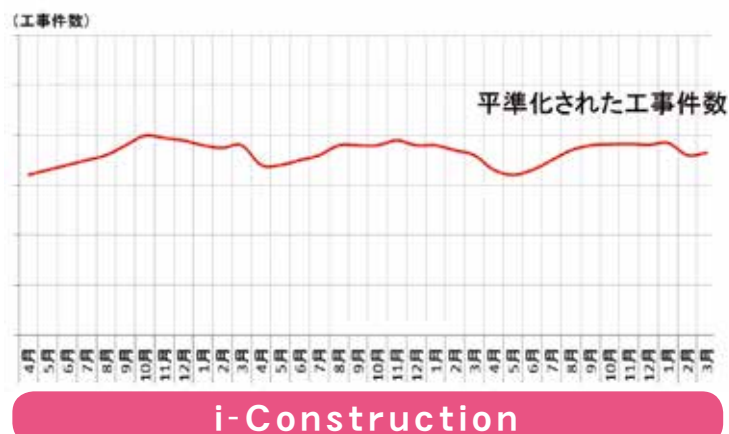
このような課題を踏まえ、コンクリート工の生産性向上を図るため、下流工程（プロセス）を踏まえた設計、施工や維持管理に知見を有する者が設計の段階から係わる仕組み等、全体最適の導入に向けた検討や、部材の規格の標準化、鉄筋のプレハブ化等の普及に向けたガイドラインの策定等、要素技術の一般化に向けた検討、サプライチェーンマネジメントの導入に向けた検討に取り組みます。

施工時期の平準化

発注年度内に工事を終えなければならないという既成概念に固執するあまり、年度をまたぐ工事は工期が長い工事に限定され、年度末に工期が集中するなど月毎の工事量の偏りが大きくなっています。

2カ年国債の活用等により、4～6月の閑散期、年度末の繁忙期を解消し、資機材・人材の効率的な活用を図ると共に、労働環境の改善を図ります。

施工時期の平準化の概念図



建設現場が変わります！

平成28年3月30日に国土交通省は「ICTの全面的な活用（ICT土工）」について実施を表明しました。

3次元データによる公共測量マニュアルや監督・検査基準などの15の新基準及び、ICT建機のリース料も含む新基準を平成28年度より導入します。

ドローンによる測量が拡大



従来測量



ドローンを用いた測量
マニュアルの導入により、
3次元測量が拡大



レーザ測量等に加え、
ドローンによる3次元測量も可能に

ICT建機による施工が拡大



丁張りによる施工

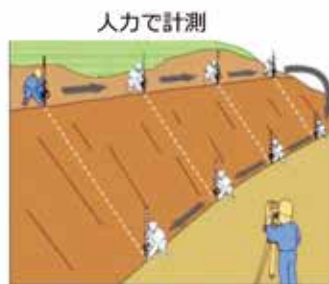


ICT土工用積算基準の
導入により、**ICT建機
による施工が拡大**



ICT建機による施工

検査日数が大幅に短縮



10断面 / 2km



監督・検査要領（土工編）
（案）等の導入により、
**検査にかかる日数が
約1/5に短縮**
（2kmの工事の場合10日→2日へ）

GNSSローバー等で計測



1断面のみ / 1現場

検査書類が大幅に削減

工事書類
（計測結果を手入力で作成）

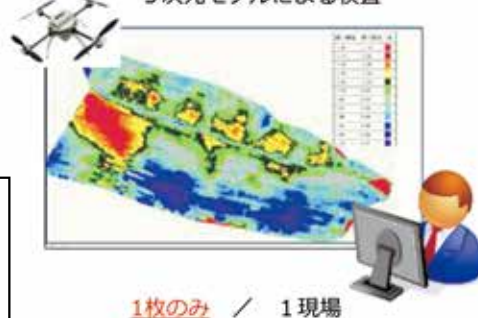


受注者
（設計と完成形の比較図表）
50枚 / 2km



監督・検査要領（土工編）
（案）等の導入により、
検査書類が1/50に削減

3次元モデルによる検査



1枚のみ / 1現場

北陸地方整備局での取り組み

北陸地方整備局では、i-Construction（「ICT技術の全面的な活用」「規格の標準化」「施工時期の平準化」による生産性の向上）の現場への導入や、地方公共団体

及び業団体への普及活動を推進するため、北陸地方整備局長を本部長とした推進本部を設置し、平成28年2月15日に第1回会議が開催されました。

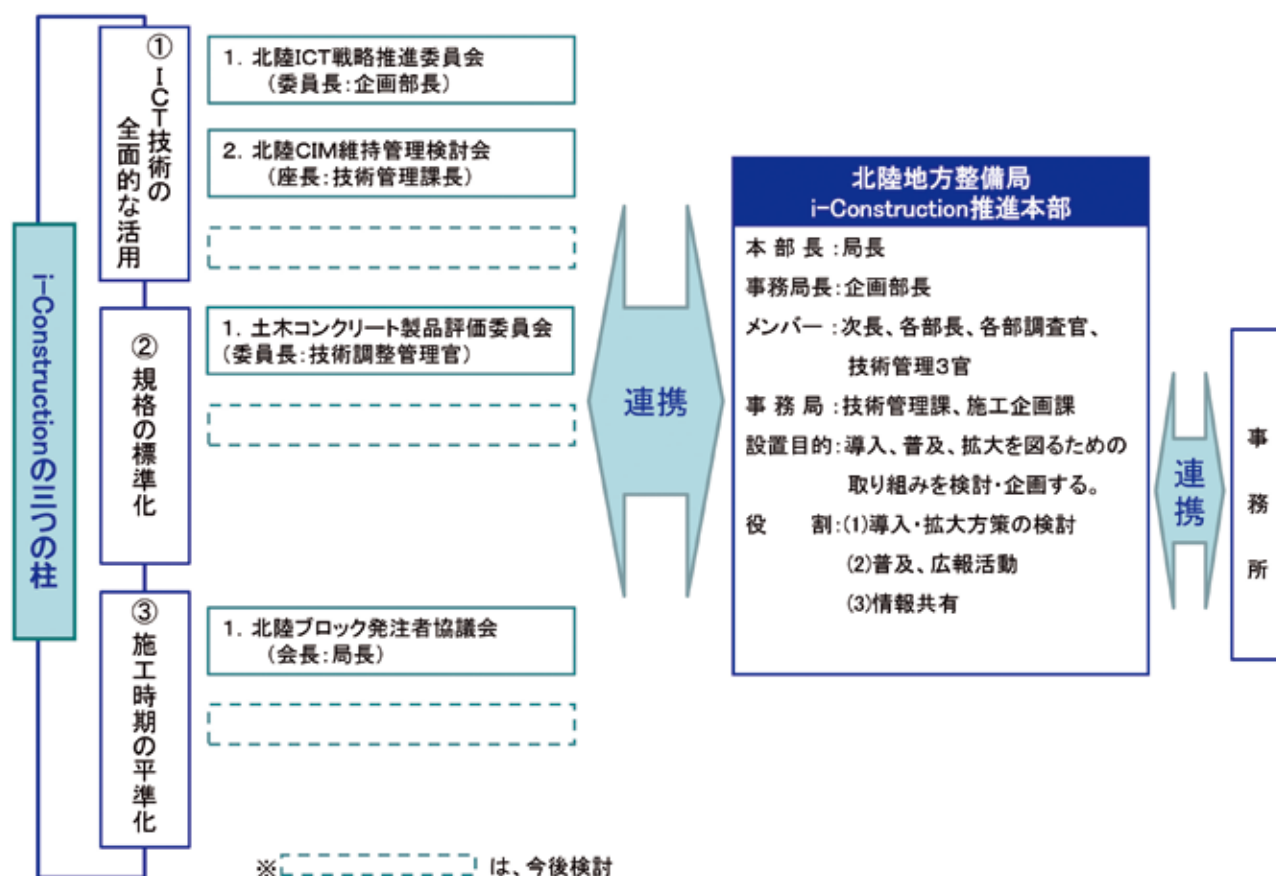


推進本部長（局長）挨拶



会議の様子

北陸地方整備局i-Construction推進体制



おわりに

北陸地方整備局では、「北陸地方整備局i-Construction推進体制」のとおり、既存の様々な組織を活用し今後の展開を図っていく所存です。

随想 夢にまで見たラウンドアバウト

若林和枝

「これは面白い交差点だなあ、日本にもこんな楽しい交差点ができれば一度走ってみたいなあ」

以前、イギリスから帰国した友人から信号機のない環状交差点(ラウンドアバウト)の話を聴いて、なるほどそれは便利だと思っていました。

一方通行でグルグル回って、それぞれの目的地に向かう。方向が決まるまで何周しても大丈夫でUターンも簡単にできるという、画期的な内容でした。

あれから20年ついにその時が来たのです。

私は新潟県中越地震を期にNPO法人を設立して、主にまちづくりや地域活性化や防災・災害支援活動などを行って12年目を迎えています。5年前の東日本大震災(2011.3.11)では直後に現地入りし、物資や心のケアなどの支援活動を行ってまいりました。

当時、水が引いておびただしい数の車が折り重なり、流れ着いている光景(家屋など全てが流されている)を目の当たりにしていました。

車で避難途中に流されてしまった人も多かったと聴きました。街じゅうが停電して真っ暗な中で、時折大きな余震にトラックごと揺られながら車中泊をしていた。数多くの避難所で話を聴いた。車で逃げるときにどっちにも進めなかった。「まさか…。」誰も予想できなかったという。そんな時、もしもラウンドアバウトがあったなら、救われた命があったかもしれない。

調べてみると、イギリスやアメリカなど諸外国でラウンドアバウトの導入後、交通事故の減少効果が報告されているという資料を見つけた。(※国土交通省「ラウンドアバウトの効果・影響に関する仮説の検証」より) 更に調べてみる

と、ラウンドアバウトは1960年にイギリスで調査、研究が行われ、1993年にガイドラインを発行。その実績に基づいて欧米諸国に普及となっていたようだ。(※国土交通省「ラウンドアバウトの現状」より)

私の感覚では、欧米ではもっと古くからあったものだったと思っていたので、わりと近年になって普及したと知って少々驚きました。



地図「LONDON AtoZ」より

ある日、ついに日本にもラウンドアバウトができたというニュースが飛び込んできた。平成26年(2013年)9月1日、長野県須坂市野辺町に開通したという。市のHPなどによると、この場所は以前から出会いがしらの交通事故が多発しており、住民から度々要望があがって改善策として整備されたのだそうです。これによって事故が減り、安心して通過できる場所になってほしいと思います。ともあれ日本のラウンドアバウトの歴史がスタートを切ったのです。これは私にとっても記念すべき出来事でした。

そして今年(2016年)3月、私の住んでいる新潟県にもラウンドアバウトが誕生したのです。なんと県内2ヶ所に完成したのです。新潟県第1号は田上町に完成。役場に近い、見通しの良い田んぼの中にできています。つづいて角田浜の三叉路もラウンドアバウトになりました。

さっそく田上町のラウンドアバウトを走ってみました。田んぼの中なのに、意外と交通量は多かった。緊張感がこみ上げてくると、ワクワクする気持ちの複雑な興奮の中で、グルリと回ってみました。実はうれしさのあまり、一度だけでは満足できずに、何度もグルグル回って様々な方向に抜けてみました。最初に話を聞いたとおり、これは面白い！私が特別努力をしたわけでもないのですが、子どものようにはしゃいでいました。私の20年来の夢が叶ったのでした。

一通り走った後、車から降りて行き交う車の様子も観察していました。すると、ほとんどの車が交差点内に侵入する時も、交差点内（環道）を走行する時も、ゆっくりとスピードを落として走行していて、中には少し戸惑っているように見える車もありました。また私と同じように、同じ車やバイクが繰り返して通るのも見かけました。楽しそうです。「うん、うん」「分かる、分かる」そんな気持ちで、その光景を見ていました。

知人からの話の中で、田上町ではあじさい交差点という可愛い名前を付けて記念の缶バッジを作ったら、予想以上に売れて間もなく品切れになり、追加注文したという。私も一つ欲しいなあと思っていますが、未だ手に入っていない。機会があったら是非記念に購入したいと思っています。

人気があるということは知っていただける良い機会になっているように思います。コミュニケーションツールですね。楽しんでいる人が沢山いるということを知って嬉しい気持ちになりました。観光情報の雑誌にも田上町のラウンドアバウトが紹介されており、交差点もしっかり観光資源になっていました。素晴らしいことですね。これからも臨機応変にルートを変えられるやさしい交差点が増えていくことを願っています。

こんなに楽しい交差点ですが、しっかりと浸透するまでの間、慣れない標識に戸惑うドライバーさんへの配慮が必要になりそうですね。みなさんも是非ラウンドアバウトを体

験して、多くの人に教えてあげてください。子ども達や、おじいちゃんやおばあちゃんにも話してあげてほしいと思います。なんだか道が「おもしろい」の心をもって、私たちにやさしく微笑んでくれているような気がしてきました。



田上町ラウンドアバウト交差点付近道路標識（右は筆者）

これからもっともっとラウンドアバウトが普及して、日本のラウンドアバウトが当たり前になったら、普段は人や車にやさしく、いざ災害などの時には安全に避難できるような重要な役割をを果たしていることに思いがひろがります。

夢のラウンドアバウトは、まだ始まったばかりです。



プロフィール

NPO法人 おぢや元気プロジェクト
理事長 若林和枝

2005年 NPO法人 おぢや元気プロジェクト設立

2007年 新潟県中越沖地震被災地支援活動
移動式「心の駅」開発「心のケア」

2011年 東日本大震災直後から福島県浜通にて
支援活動「心の駅」7ヶ所設置（継続中）

2014年 財団法人 山の暮らし再生機構 理事

現在に至る

台湾で慕われている日本人・八田與一 —なぜ「日台の架け橋」と呼ばれるのか—

金沢ふるさと偉人館 学芸員 増山 仁

1. はじめに

金沢ふるさと偉人館は、平成5年に開館した金沢ゆかりの偉人を顕彰展示する博物館である。現在、27人の偉人を常設展として顕彰している。今回紹介する八田與一もその1人である。

八田與一は、台湾南部にある嘉南平原を灌漑するための烏山頭ダムを建設した土木技師である。司馬遼太郎が『街道を行く』（朝日新聞出版）の中で八田與一を紹介したことから少しずつ知られるようになった。高尾の日本人学校で教師を務めていた古川勝三氏は最初台湾で『台湾を愛した日本人』を出版、その後日本でも出版されたが一時絶版となっていた。現在は創風社から改訂版が再版されている。また、「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」が中心となって、八田與一の命日である5月8日に毎年開催される墓前祭に参加するなど、顕彰活動が広がりを見せている。中央の新聞やテレビで紹介されることも多くなり、現在は全国的に認知度が高まっているといえよう。

さて、一土木技師であった八田與一が、「日台の架け橋」と呼ばれ、日台交流に重要な役割を果たしているのはなぜなのか。八田與一の生涯と業績とともにみてみたい。



金沢ふるさと偉人館の八田與一コーナー

2. 生い立ち

まず、八田與一の生涯について簡単に紹介したい。與一は明治19（1886）年2月21日、石川県河北郡花園村（現金沢市今町）で四郎兵衛、サトの五男として生まれた。家は農家であるが、多くの土地を所有するいわゆる豪農であった。



金沢市今町にある生家と生誕地碑

石川県立金沢第一中学校（現金沢泉丘高等学校）を経て第四高等学校（現金沢大学）へ進学する。この四高では西田幾多郎（1870～1945 哲学者）から教えを受け、後の與一の思想に影響を与えたとする指摘もある。また、同級生には正力松太郎（1885～1969 読売新聞中興の祖）や河合良成（1886～1970 小松製作所（現コマツ）中興の祖）、飯盛里安（1885～1982 放射化学の父）などがある。四高卒業後、東京帝国大学工科大学土木科へ進学し本格的に土木を学ぶ。

明治43年、東京帝大を卒業した與一は、台湾へ渡り、台湾総督府土木部の技術者として就職した。最初は台南の上水道工事などを担当、さらに桃園埤圳を担当した。

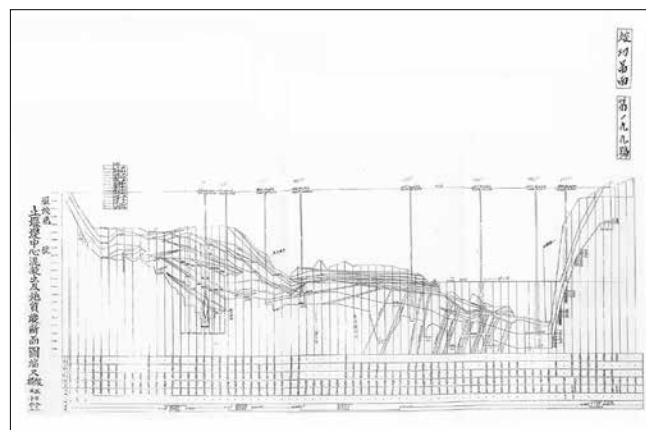
「埤圳」とは灌漑施設のことで、「埤」は貯水池、「圳」は水路のことである。現在、台湾に飛行機で行くと桃園国際空港へ到着するが、この着陸前、窓から多くの貯水池が見える。この貯水池と水路が桃園埤圳である。

3. 烏山頭ダム建設

桃園埤圳を担当していた與一のもとに、新たな仕事が命じられる。水力発電のための水源調査と灌漑用ダムの立地調査である。この調査が與一の将来を決定付けることになる。水力発電は現在日月潭のある場所を適地としたが、この工事は與一の担当とならなかった。もう一つ、灌漑用ダムは官田溪を適地と報告し、嘉南平原を灌漑するという壮大な計画を提出した。嘉南平原は台湾で一番大きな平野であり、北回帰線の南に位置している。当時、夏は雨期で洪水が頻発、冬は乾期で干ばつ、沿岸部は塩害という水田には適さない平野であったが、この平野の約15万 km^2 を灌漑しようという計画である。この面積は金沢市の3倍強、石川県の1/3強という広大な面積である。あまりに壮大な計画であり、費用も膨大になると考えられたことからこの計画はすぐには決定しなかった。ところが、ちょうどその頃、日本では米騒動（大正7年）が起こるなど、深刻な米不足が発生していた。台湾で米を増産すれば、日本へ米を運ぶことができる。このため大正9（1920）年、「公共埤圳官田溪埤圳組合」が設立され、嘉南平原灌漑事業がスタート、與一はその責任者となった。

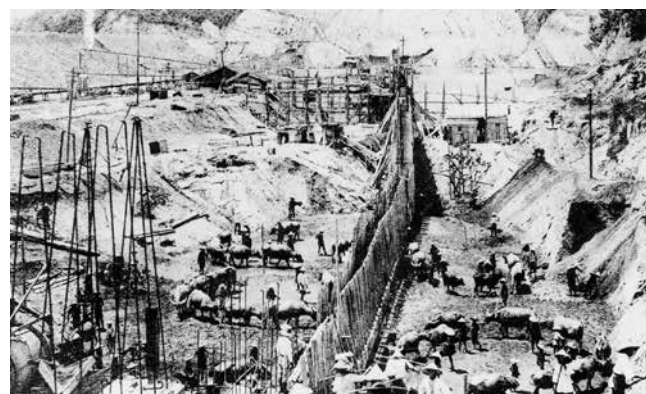
計画では、水源は濁水溪と官田溪の二つ。濁水溪は台湾最大の川であるが、その名の通り年中濁った水が流れており、ダム建設に適さない。このため直接取水を3カ所で行う。官田溪にはダムを建設する。これが烏山頭ダムである。このダムによって、総貯水量1億6680万トン、有効貯水量1億5290万トン、満水面積10 km^2 の巨大な人造湖ができる。ただし、官田溪だけでは水量が不足するので烏山嶺に3,109mの隧道を掘削し、曾文溪から導水するというものである。堰堤は全長1,273m、底部幅303m、高さ

56mで、当時東洋一の巨大ダムとなる。しかも、この堰堤を日本はおろか東洋でも誰も行っていないセミ・ハイドロリックフィル工法（半水成式工法）で建設するというものである。これは射水によって堰堤を構築する独特のフィルダムである。この工法はダム先進国であるアメリカでも比較的小規模なダムに採用される工法で、完成すれば烏山頭ダムがこの工法による世界最大のダムとなる。

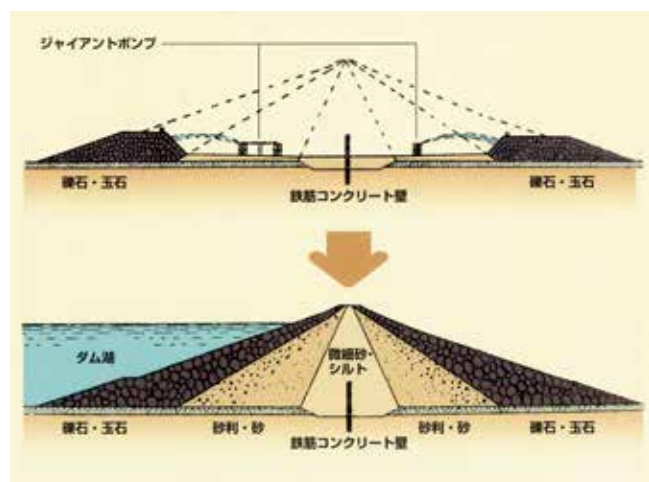


烏山頭ダム 縦断面図

與一の計画では、第三紀新層まで掘り下げた基礎地盤に中心コンクリートコアという平均高3.64m、底部幅1.54m、頂部幅0.91m、根入れ深4.55～28.18mの鉄筋コンクリート壁を堰堤の全長に築き、下流側に排水暗渠幹線と支線を設ける。さらに堰堤内部の圧力測定や標本を得るために、高さ48.5m、内径1.52mの八角形の鉄筋コンクリート製マンホールを6カ所設けるというものである。堰堤に必要な土砂は約6百万 mm^3 となる。



中心コンクリートコア工事



セミハイドロリックフィル工法の模式図とダム横断面

また、與一はダム建設にあたり、大量の大型土木機械を導入している。当時、土木工事は人力で行うのが一般的で、大型ショベルカーは国内に2台しか存在しなかった。そのような中で、スチームショベル大型5台、小型2台、エアーダンプカー100両、ジャイアントポンプ（12イン

チ、450馬力) 5台、56トン機関車12両、スプレッターカー1台、ラダーエキスカベーター2台、20馬力巻揚機1台、コンクリートミキサー4台大型削岩機、大型エアーコンプレッサーなど47機種を自ら渡米し購入している。その購入費用は400万円にのぼり、工事費全体の1/4を占めている。大型機械の導入に関しては、当初、「これまで通り人力だけで工事はできる」とか「機械代が高い」「使い方がわからない」など反対意見が多かったという。これらに対して與一は「機械導入によって工期が短縮され、結局安くなる」「機械に習熟すれば次の工事でも役立つ」と説得した。このようにして、日本本土でも行われていない大型機械による土木工事が実施された。

この工事には、もう一つ特徴がある。工事現場近くに作業員のための町を造ったことである。いわゆる飯場ではなく、作業員が家族と一緒に住む町を造ったのである。與一は「家族と一緒に暮らしたほうがよりよい仕事ができる」という考えのもと、自らも家族ともどもこの町に移

り住んだ。町まで鉄道が敷かれ、宿舎だけではなく学校や病院、郵便局などもあった。テニスコートもあり、月に1回、野外映画も上映された。多いときには人口2千人を超え、新たな一つの町が誕生したのである。

当初、5年で完成する予定であったが、関東大震災（大正12年）が起こったことにより予算措置が遅れるなどしたため、完成は昭和5（1930）年となった。途中、烏山嶺隧道で爆発事故が起こり、多数の死者を出すなど、困難の多い工事であったが、10年の歳月を経て「嘉南大圳」工事は完了した。「嘉南大圳」とは、ダムと給排水路を併せた全体と指すもので、給排水路の全長は1万6千km（地球1/3周）にのぼる。この「嘉南大圳」の完成によって、「不毛の大地」と呼ばれた嘉南平原が、台湾一の穀倉地帯へと変わっていったのである。

烏山頭ダムのほとりには「殉工碑」が建っている。與一による撰文とともに、工事で亡くなった人の名前が、日本人、台湾人の区別なく平等にここに刻まれている。



大型スチームショベル



堰堤の土砂積み上げ



土砂積み込み作業



ジャイアントポンプによる射水作業

4. 日台の架け橋

現在、烏山頭ダムのはとりに、ダムを見下ろすように與一の銅像と與一夫妻の墓が建っている。毎年、與一の命日である5月8日、台湾人、日本人が数百人参列して墓前祭が行われている。

この銅像には忘れてはいけなないエピソードがある。銅像はダム完成の翌年である昭和6年に作業に携わった有志によって建てられた。しかし、第2次世界大戦勃発によって戦時供出、溶かされる運命となったにもかかわらず、幸運なことに終戦時、駅の倉庫で無傷で発見されたのである。ところが、終戦後台湾は中華民国となり、残っていた日本人の銅像はすべて壊されたのである。像を発見した地元の農民たちは、與一の像が壊されるのを防ぐため、この銅像を隠したのである。像が再設置されたのは昭和56年、なんと36年もの間、與一の銅像は嘉南の農民によって守られていた。この間、多くの日本人が與一を忘れていたにもかかわらず、嘉南の人たちは與一への感謝を忘れず、銅像を守りながら墓前祭を行っていたのである。銅像再設置以降、日本からも墓前祭に参列する人が増え、平成12年にはダムの送水口横に「八田技師記念室」が開館した。さらに、平成23年には與一が住んでいた宿舎を復元した「八田與一記念公園」を整備、同25年にはここに妻外代樹の銅像も建立された。

八田與一が行ったことは烏山頭ダムを造り嘉南平原を豊かにしたことであるが、現在は日台友好のキーパーソンとして注目されている。



現在の烏山頭ダム



八田與一の銅像と夫妻の墓



八田與一夫妻（昭和17年）



八田與一記念公園に復元された與一の宿舎

※白黒写真及び図面は金沢ふさと偉人館提供。カラー写真は増山が撮影。

「平成28年熊本地震」により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

熊本地震の前後

「平成28年熊本地震」は、熊本空港のある益城町から始まり、南阿蘇村、大分県、その他の地域へと広がりを見せ、現在でも多くの余震が続いている状況です。

九州一周の旅行を企画する場合、様々なコースが考えられますが、九州新幹線など無かった時代には「Sコース」が一般的でした。福岡から入って、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島とSの字を描く様に九州を一周しながら観光するコースです。

このコースで九州を西から東へ横断する場所が、正に被害の大きな場所となっております。熊本市内から別府温泉などに抜ける場合には必ず通る区間でした。

熊本市内～阿蘇山(草千里・中岳)～やまなみハイウェイ～別府温泉へとつながる、観光をしながら1日かけて横断する場所で、現在でも多くの観光客が利用していました。最近では、九州横断特急を利用して移動する事もあります。



熊本城立ち入り禁止区域

熊本観光

熊本県は観光地が点在しており、短時間で全てを見る事は難しい場所です。大きく分けて、熊本城を中心とした「熊本市内」、キリシタンの「天草地区」、球磨川や球磨焼酎が有名な「人吉地区」、自然を満喫できる阿蘇山を中心とした「菊池川・阿蘇・黒川地区」となります。(所説あるので一概には言えませんが…)

天草地区の島以外を観光で回るなら、観光列車が1番です。熊本県は観光列車が充実しており、阿蘇へ行くな「特急あそぼーい」、その奥の白水水源へ行くな「トロッコ列車ゆうすげ号」、天草の入口までは「特急A列車で行こう」などがあり、他に6路線で合計9路線を運航しております。以前の「雪の音」で紹介した「おれんじ食堂」もその一つで各観光列車は様々な特徴を持った列車です。

また、熊本県の温泉地は、熊本県と大分県の県境に位置する「杖立温泉」や球磨川沿いの山岳部にある「人吉温泉」、阿蘇の北部に位置する人気ナンバーワンの黒川温泉郷などが有名な場所となっております。

熊本県の観光の中心は、やはり熊本市内と阿蘇ではないでしょうか?他にも色々な観光地がありますが熊本県の象徴である「熊本城」や「水前寺成趣園」、阿蘇山の「中岳」、阿蘇山を一望出来る「大観峰」などは外せない観光地です。



水前寺成趣園

観光に行くとお腹も減ります。熊本名物と言えば、とんこつベースの「熊本ラーメン」やレンコンに辛子を詰めてから丸ごと揚げた「辛子レンコン」、スープの中に春雨メインで野菜、豚肉、かまぼこ、エビなどを入れた「太平燕(タイピーエン)」、お酒や焼酎のお共に喜ばれる通称「桜肉」と呼ばれる「馬肉」などが有名です。



馬刺し



辛子レンコン



熊本ラーメン

熊本城と水前寺成趣園

熊本城では、掲載したように多くの国指定の重要文化財が被害にあっております。天守や櫓（やぐら）を初めとした建築物や城壁が破損し、立ち入り禁止の場所も多く、未だ修復の目処が立っておりません。

東海道五十三次を模した庭である「水前寺成趣園」も被害が甚大です。阿蘇の伏流水で湛えられていた池も水脈の変化なのでしょう、水がほとんどない状態です。

現在、阿蘇山の中岳も小規模な噴火がありますし、阿蘇地区は土砂崩れや橋の崩壊、道路の陥没などもあり、先が見えない状況です。



【国指定の重要文化財】東十八間櫓（左 震災前、右 震災後）



【国指定の重要文化財】北十八間櫓（左 震災前、右 震災後）



馬具櫓近くの桐形（左 震災前、右 震災後）

復興

一方で新幹線や高速道路も復旧し、いよいよ復興が始まりました。まだまだ時間がかかるとは思われますが、被害の少ない観光地もあります。この機会に熊本を含めた九州観光はいかがでしょうか？

宇土櫓（震災前）



宇土櫓（震災後）

不開門（震災前）



【国指定の重要文化財】
不開門（震災後）

大小天守（震災前）



大小天守（震災後）



平成28年度(第34回) 北陸支部定時総会

〈事務局〉

去る平成28年4月21日(木) ホテルイタリア軒において、平成28年度第34回北陸支部定時総会が開催されました。

総会は、出席会員の確認、総会成立宣言に続き寺本支部長の挨拶がありました。



寺本支部長の挨拶

開会に先立ち、新たに北陸支部会員として入会された、(株)東北開発コンサルタント新潟営業所様が紹介されました。

その後議長より、議事録署名人が委嘱され議事に入りました。

議事録署名人

(株)建設環境研究所
新潟支店長 長谷川 修 様

(株)長大 北陸事務所
所長 川端 博文 様

議事の審議は以下のとおりで、原案どおり承認されました。

- 第1号議案 平成27年度事業報告
北陸支部活動報告
- 第2号議案 平成27年度収入支出決算報告
監査報告
- 第3号議案 平成28年度事業計画
- 第4号議案 平成28年度収入支出予算
- 第5号議案 役員の選任について

支部理事からの辞任届を受け補選審議を提案し、株式会社国土開発センター 笹谷 輝彦 様が承認されました。

北陸支部 役員名簿

支部長	寺本 邦一	開発技建(株)
副支部長	新家 久司	(株)国土開発センター
副支部長	吉田 攻	(株)大日本コンサルタント
副支部長	中俣 孝	(株)構造技建新潟
運営委員長	高田 一博	開発技建(株)
運営委員	大平 豊	エヌシーイー(株)
運営委員	涌井 正樹	(株)キタック
運営委員	瀬川光太郎	(株)建成コンサルタント
運営委員	大川 重雄	(株)建設技術研究所
運営委員	黒木 康生	(株)日本海コンサルタント
運営委員	笹谷 輝彦	(株)国土開発センター
監事	高堂 景寿	相互技術(株)
監事	吉楽 雅博	大原技術(株)



議事の様子

総会後、講演会を開催いたしました。講演の内容は以下のとおりです。



講演の様子

講師 一般財団法人日本建設情報総合センター
顧問 佐藤 直良 氏

演題「社会資本マネジメントの転換」

講演内容は以下のとおりです。

1. 社会資本整備の変遷
 - ・ より安全に
 - ・ より便利に
 - ・ より快適に
2. 土木人の志
 - ・ 古市 公威氏
 - ・ 廣井 勇氏
 - ・ 青山 士氏
3. 土木応援団団長 作家 田村喜子の言葉
4. 社会資本の現状
 - ・ 社会資本ストック 786兆円
 - ・ 住宅ストック 365兆円
5. 日本社会の動向
 - ・ 民主主義の危機
 - ・ 資本主義の危機
 - 市場原理主義、グローバル化
 - コモディティ化 (システム・人・技術)
 - ・ イノベーションへの期待
6. 建設界の状況
 - ・ 建設投資
 - ・ 人材 (建設コンサルタント、公務員、建設業)
 - ・ 情報化
 - ・ 志と信頼
 - ・ 技術
7. 社会資本の転換期
 - トータルマネジメントの再構築
 - ・ 目的、機能
- ・ 場所と時間軸
- ・ 時代の変化への柔軟性
- ・ 世界の動向の反映
- ・ 管理・精算システムの転換
- ・ ステークホルダー間の役割分担の転換
8. 新たな潮流
 - ・ 国土管理情報と測地技術
 - ・ BIM、CIM、情報化施工
 - i-Construction…3次元の世界
 - ・ 再生、更生
 - ・ 複合化技術
 - ・ 新素材
 - ・ 新工法
9. 社会資本トータルマネジメントへ向けた試み
 - 新たな河川管理システムの構築
 - ・ 3次元仮想現場
 - ・ 画像処理、センサー技術の活用
 - ・ 設計から維持管理までの統合
 - ・ 新たな建設現場システム
 - ・ 調達システムの転換
10. 建設と政治、経済
 - ・ 英国 キャメロン首相の言葉
 - ・ 品確法、改正品確法
 - ・ フローとストック効果
11. 建設コンサルタントに期待する

社会資本整備の変遷や我が国の動向を踏まえ、CIM、情報化施工、i-Constructionなどの3次元データを活用した新たな技術やトータルマネジメントへ向けた河川管理システムの構築などについて、わかりやすく解説いただきました。今後も新たな技術の活用により更なる充実が期待されるところであります。



講演会の様子

平成27年度 独占禁止法等遵守に関する講習会

〈独占禁止法等の遵守に関する特別部会〉

今年度の新潟地区での独占禁止法等遵守に関する講習会は、平成28年2月24日に新潟市（興和ビル）で開催され、会員各社の役員・社員の参加は80名でした。講習会は北陸支部中俣副支部長の開会挨拶の後、次の講演2題がおこなわれました。

中俣副支部長による講演

『片務性と発注者との関わりについて』

平山勝也法律事務所 平山勝也弁護士による講演

『独占禁止法を主とした法律説明』

中俣副支部長による講演

改正品確法に基づき平成27年1月に策定された『発注関係事務の運用に関する指針』の理解のために、指針内での主なポイントについて説明されました。

併せて、平成27年11月に新潟県土木部から協会北陸支部に示された『測量・調査・設計業務委託の品質確保に関する取組について』にも解説され、①適切な履行期限の設定と平準化、②設計条件明示の徹底、③適切な設計変更・工期変更、④照査業務の明確化、⑤事業・設計審査会の活用、⑥受注者との情報共有化・設計協議の迅速化が明文化されていることから、受注者としてもより一層の品質確保に取り組むことが重要であること話されました。

さらに、業務委託における片務性の解消と双務性の向上については、発注者と協会北陸支部との意見交換会でも継続的に取り上げており、新潟県土木部では『業務委託の双務性の向上について』としてまとめ運用しているので、設計協議の徹底や繰越制度の活用などで業務改善をおこなう必要性を説明されました。



平山勝也弁護士の講演

昨年度に引き続き2回目の講演となるもので、今回は『独占禁止法の全体像』、『独占禁止法の違反の各類型』と『独占禁止法とTPP』の3つについて解説されました。



『独占禁止法の全体像』の話では、①法律の目的、②私的独占の禁止や入札談合の禁止などの法律で規制している内容、③違反した場合の課徴金納付などの命令や損害賠償及び罰則、④数回にわたる法律の改正内容など、基本的な4項目について解説されました。

『独占禁止法違反の各類型』の話では、不当な取引制限の禁止と事業者団体に対する規制内容について取り上げ、カルテル、談合などを認定する条件の解説と2例の具体的裁判例を取り上げ、裁判における争点について説明されました。

『独占禁止法とTPP』については、TPP協定内で「競争法違反の疑いについて競争当局と事業者の合意により自主的に解決する制度の導入」が規定されていることと、この規定は日本の制度に無いこと、そして独占禁止法の改正でその制度を取り込む必要があることを説明されました。

さらに、改正で導入される制度としてはEUの確約制度に準ずるものが考えられること、改正において競争上の法律違反の懸念が早期に解消されることや法律違反の調査や審判に費やされる手間や時間が減少するメリットについても触れられました。

90分の講習でありましたが、独占禁止法の再認識だけでなく、改正品確法やTPP関連の問題なども理解できる内容でした。



お知らせ

第3回 まちづくりセミナー報告 ～まちなか再生・まちなか居住～

〈技術部会 都市計画委員会〉

平成27年11月11日（水）、長岡市で「まちなか再生・まちなか居住」をテーマに第3回まちづくりセミナーを開催いたしました。

このセミナーは、(1) 会員の技術研鑽、(2) 建設コンサルタントの認知度および地位の向上、(3) 地元に対して役立つ活動、を目的に年1回開いているもので、学生にも参加を呼びかけています。

昨年の高岡市に続き、今年も実際の都市でのケーススタディーです。

◆会 場 まちなかキャンパス長岡
(フェニックス大手イースト内)

◆参加者 会員18名
長岡技術科学大学 樋口 秀 准教授
長岡市中心市街地整備室
高頭 靖 課長
同
大矢 芳彦 課長補佐
計21名

◆プログラム

- 13:30 開会
都市計画委員長挨拶
- 13:35 話題提供
(1) まちなか再生・まちなか居住
ーその課題と対応策は？ー
講師 長岡技術科学大学大学院
工学研究科
樋口 秀 准教授
(2) 都市機能の集積による中心市街地の再生
講師 長岡市中心市街地整備室
高頭 靖 課長
- 14:05 役割分担、検討目標（テーマ）の設定
- 14:15 現地視察・グループ討議
- 16:50 発表、質疑応答
- 17:40 総括
- 17:45 閉会
- 18:30 交流会

1. 検討箇所

今回の検討箇所は二つです。

一つは都市計画マスタープランの住宅地区分で「にぎわい住宅地」とされた柳原地区で、まちなか居住の具体策を検討するものです。

もう一つは商業地の大手通り・スズラン通りにある空き店舗で、その活用策を検討するものです。

5ヶ月ほど前から、大学、行政との連携も視野に入れつつ、長岡のここに絞ってきました。

ともに会場からは徒歩圏内です。現地を実際に見てプランを検討するという流れなので、会場と現地が近いのは好都合なのです。



位置図

2. 進め方

次の手順で進めました。

(1) レクチャー

樋口先生、続いて高頭課長からレクチャーを受けました。

(2) 作業の説明と検討対象の選択

予め4人ずつの4グループに分けています。

作業の流れ、および「柳原地区（まちなか居住）」「大手通り・スズラン通り（空き店舗活用）」の概要を説明したうえで、各グループにどちらかの箇所を検討対象に選んでもらいました。（各箇所に2グループずつ。自主選択、早い者勝ち）

(3) 現地視察

担当する検討対象地区を歩いて視察しました。エスコートは、柳原地区を樋口先生、大手通り・スズラン通りを大矢課長補佐にお願いしました。



柳原地区(旧市役所分庁舎)



大手通り・スズラン通り

(4) グループ討議・発表・質疑応答

グループ討議の結果を模造紙2枚にまとめました。2枚をどう使うかも思案のしどころです。



グループ討議の様子

発表は各グループ10分程度。その後、自分のグループを除く3グループのうち最も良いと思うものに各自が投票し、人気順位を付けました。

(5) 総括

大矢課長補佐、樋口先生からそれぞれ総評ご意見を伺ったのち、事務局の埴委員(日本海コンサルタント)が、まとめ方や発表の要点などについて総括し、閉会となりました。



発表の様子



樋口先生による総評

3. おわりに

限られた時間の中で、的確な着眼力、まとめる力、伝える力をどう発揮するか、ということを磨くのもこのセミナーの眼目です。

また、モノを作ることに加え、コトをどう押さえるかというのが、建設コンサルタントに必要な資質かと思えますし、自分たちの作るモノがその場所でどう働いているのかをきちんと知る意味で、他分野の方々にとってこのセミナーは役立つことが多いと思います。

多方面の方々のご参加をお待ちしております。

最後に、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

お知らせ

「中学・高校出張 土木の魅力PR大作戦！」参加報告

〈技術部会 若手技術者ワーキンググループ〉

1. はじめに

近年、建設業界の担い手不足が深刻化しているなか、次世代に土木の魅力を発信し、人材確保に繋げるべく、新潟県新津地域整備部より、官民協働での「中学・高校出張 土木の魅力PR大作戦！」の企画が立ち上がりました。これは、新潟県新津地域整備部を中心に建設業に関わる協会の代表が集まり、中学生、高校生に土木の魅力を講演するものです。

この企画に建設コンサルタンツ協会北陸支部より、若手ワーキンググループのメンバーが参加しましたので、ここに報告します。

2. 開催概要

「中学・高校出張 土木の魅力PR大作戦！」は、新潟県新津地域整備部管内の中学2校、高校1校を対象に下記のとおり開催しました。

- ①平成27年12月22日（火）
五泉北中学校 1・2年生 266名参加
- ②平成28年1月18日（月）
新津高等学校 1・2年生 8名参加
- ③平成28年1月28日（木）
五泉中学校 1・2年生 285名参加

この主なプログラムは、下記のとおりです。

- ◆開会、概要説明
(新潟県新津地域整備部)
- ◆新潟県PR講演
(新潟県新津地域整備部)
- ◆建設コンサルタントPR講演
(建設コンサルタンツ協会北陸支部)
- ◆建設業（施工者）PR講演
(新潟県建設業協会新津支部)
- ◆測量デモンストレーション
(新潟県建設業協会新津支部)
- ◆記念撮影
(全員)

3. 開催結果

ここでは、3回行われた講演のうち、五泉北中学校で行われた内容を紹介します。

前段の概要説明として、新潟県新津地域整備部より、建設業の魅力である下記3点がアピールされました。

- ①地図に残る仕事である
- ②やりがいがある仕事である
- ③地元で働ける仕事である

また、それに係わる業界3者（新潟県、建設コンサルタント会社、施工会社）の役割と内容の説明があり、それぞれの機関のPRに繋がりました。

最初のPRは、新潟県新津地域整備部で、公務員は地域住民と関わる機会が多く、大変使命感のある仕事である旨の説明がありました。



新潟県新津地域整備部の講演

次に建設コンサルタンツ協会北陸支部がPRしました。北陸支部としては、私たちは「まちづくりの専門家」として、道路や橋などの構造物を設計するだけではなく「動物の除草実験」、「まちなかレンタサイクル」等、構造物の利活用も含めた活気あるまちづくりの取り組みも行っていることを説明しました。

また、若者や女性が多く働く職場であることも強調してPRを終えました。



建設コンサルタンツ協会北陸支部の講演



説明資料の抜粋

最後に、新潟県建設業協会新津支部から仕事内容の説明と、測量機器の実演がありました。測量機器の実演では、中学生がバレーボールコートの一辺の長さを測ったり、約40m離れた体育館の壁にある小さな字を読んだり、実際に機器に触れてもらいました。



新潟県建設業協会新津支部の実演

聴講した生徒の代表である女生徒からは、「今まで知らなかった土木の仕事について新しい知識が増えて良かった」「土木は身近なものだと改めて認識した。これからも活躍してほしい」との感想と感謝の言葉がありました。

また、その他の開催した学校からも好意的な感想の手紙が届くなどの反応がありました。

4. 今後の展開（おわりに）

「中学・高校出張 土木の魅力PR大作戦！」は、好評のうちに終了しました。しかし、建設コンサルタントを含む建設業界における担い手不足は、年々深刻化しており、今後の技術維持、継承のためには、人材確保が益々重要になってくるものと考えています。

今後も、このような建設業界が一体となった取り組みには、積極的に参加し、次世代に土木の魅力を伝えることで人材確保に繋げていきたいと考えています。

お知らせ

【製作秘話】建コンPR動画 第2弾!! 教えて!ケンコンさん Negicco Kaedeと巡る「まちの施設」in 北陸

〈技術部会 広報部会〉

1. はじめに

建設コンサルタンツ協会北陸支部では、協会のPR動画第2弾として、「教えて!ケンコンさん Negicco Kaedeと巡る まちの施設 in 北陸」を製作しました。

この動画では、建設コンサルタントへの関心が薄い小・中学生や、その保護者など、広く一般にPRし、協会の知名度やイメージ向上を図ることが狙いです。また、PR効果をより高めるため、ナレーションには、新潟県出身で全国的な人気を誇るアイドルユニット「Negicco」より「Kaede」さんを起用しました。

今回は、動画の概要と「Kaede」さんによるナレーションの様子をお知らせします。

2. 「Negicco Kaede」さんの紹介

新潟県発のアイドルユニット「Negicco」は、CDシングルがオリコンチャートの5位を獲得するなど全国的人気を誇ります。近年は、新潟市の観光PR動画「にいがた☆JIMAN!」へ出演するなど行政機関と連携した活躍もされています。また、石川県内の温泉CMに出演するなど、北陸地域での活躍も目立ちます。

今回、ナレーションを努めていただいた「Kaede」さんは、「Negicco」としてのアイドル活動のほかに新潟薬科大学の特定研究員を努めるなど、多方面で活躍されています。

3. PR動画の概要

PR動画は、登場するキャラクター「Mr.ケンコン」と「NegiccoのKaede」さんが、有名な「まちの施設」を巡りながら、建設コンサルタントの関わりを解説していく内容です。また、動画では、施設の利活用や、環境保全などの建コンの新たな取り組み、若者や女性の意見を取り入れた職場環境の改善などの事例も紹介しています。



オープニング



施設と建コンの関わり紹介



建コンの新たな取り組みを紹介



若者や女性の意見を取り入れた職場環境の改善事例の紹介

4. ナレーションの様子

動画のナレーション録音は4月中旬、新潟市内のスタジオで行われました。



Negicco kaedeさんによる録音状況

当日は報道機関も取材に集まり、この動画の注目度の高さが窺えました。また、録音には寺本支部長も駆けつけ、制作陣に激励をいただきました。そのなかで、寺本支部長より「Negicco Kaedeさんの力を借りて、建設コンサルタントの魅力をより多くの人に発信したい」との言葉がありました。制作陣も同感で、この動画をきっかけに、建設コンサルタントの知名度やイメージが向上することを期待しています。



寺本支部長への囲み取材の様子



寺本支部長とkaedeさん

5. おわりに

製作した動画は、動画共有サイト「YouTube」で閲覧することができます。閲覧するためには、下記アドレスに直接アクセスするか、「YouTube」内で「教えて!ケンコンさん」と検索するとアクセスできます。皆さん是非、アクセスしてください。

【建設コンサルタンツ協会 北陸支部 公式 YouTube チャンネル】

<https://www.youtube.com/channel/UCAmrZYDEZ5NXZA7YD-1tsOg>

お知らせ

第2回 北陸橋梁保全会議 開催

〈北陸橋梁保全会議実行委員会〉

第2回 北陸橋梁保全会議

～北陸から橋梁保全情報を発信～

期間：平成28年10月25日(火)～26日(水)

場所：新潟グランドホテル

新潟市中央区下大川前通3ノ町2230番地

CPDS認定プログラム(予定)

本会議は、産官学が連携して橋梁保全に関する調査・研究・設計・施工・維持管理等に関する情報交換を行うもので、下記プログラムを予定しています。

基調講演

平成28年10月25日(火) 13:20～14:20

「道路構造物の経年劣化の現状と課題」

講師:東京都市大学 学長 三木 千壽氏

パネルディスカッション

平成28年10月26日(水) 10:00～11:45

「維持管理と人材育成」

座長:長岡技術科学大学 名誉教授 丸山 久一氏

報文発表

1日目:平成28年10月25日(火) 14:30～17:30

2日目:平成28年10月26日(水) 8:45～ 9:30

「技術展示(PRコーナー)」

保全技術に関する新技術・新材料などを展示

詳細は下記ホームページをご覧ください

http://www.hrr.mlit.go.jp/road/hozen_kaigi/index.html

北陸支部活動報告

平成27年4月3日
協会本部第1回災害時対応検討委員会

場 所／協会本部会議室
出席者／高橋技術総括指揮者

平成27年4月9日
北陸支部会計監査

場 所／北陸支部会議室
実施者／支部監事 山本支部監事、高堂支部監事
立会者／高田運営委員長

平成27年4月9日
平成27年度第1回役員会

場 所／興和ビル会議室
議 題／平成26年度監査報告
第33回北陸支部定時総会議案について 他

平成27年4月23日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第1回幹事会

場 所／長岡科学技術大学
出席者／渡邊技術部会長

平成27年4月23日
大規模津波防災総合訓練実行委員会（第1回）

場 所／北陸地方整備局
対応者／青木総括部会長、高橋技術総括指揮者

平成27年4月23日
平成27年度 北陸支部定時総会

場 所／新潟市内
総 会／第1号議案 平成26年度事業報告
第2号議案 平成26年度決算
監査報告
第3号議案 平成27年度事業計画（案）
第4号議案 平成27年度予算（案）
第5号議案 役員の選任
講演会／演 題「今後の道路管理と道路管理システム」
講 師 一般財団法人道路管理センター
審議役 大寺 伸幸 氏

平成27年4月24日
新潟地域委員会

場 所／北陸支部会議室
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年5月7日
支部部会長会議

場 所／北陸支部会議室
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年5月8日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第1回協議会

場 所／長岡科学技術大学
出席者／寺本支部長、渡邊技術部会長

平成27年5月13日
大学PR活動

場 所／新潟工科大学
対応者／真嶋品質向上委員長

平成27年5月13日
大学PR活動

場 所／富山県立大学工学部
対応者／渡辺橋梁委員長、大蔵広報委員

平成27年5月13日
技術部会都市計画委員会

場 所／富山市内
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年5月14日
技術部会品質向上委員会

場 所／北陸支部会議室
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年5月14日
技術部会橋梁委員会

場 所／北陸支部会議室
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年5月14日
技術部会河川及び砂防委員会

場 所／富山市内
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年5月14日
大学PR活動

場 所／石川高専
対応者／木下道路委員、藤本道路委員、瀧上広報委員

平成27年5月14日
大学PR活動

場 所／長岡技術科学大学
対応者／神田道路委員長、小見都市計画委員長

平成27年5月14日
大学PR活動

場 所／金沢工業大学
対応者／今度トンネル委員長

平成27年5月14日
大学PR活動

場 所／石川県立大学
対応者／木下道路委員

平成27年5月15日
大学PR活動

場 所／新潟大学理学部
対応者／小見都市計画委員長

平成27年 5月15日
講師派遣
派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会（ME）
派遣数／1名
内 容／平成27年度ME養成講座（防災）

平成27年 5月19日
技術部会道路委員会
場 所／北陸支部会議室
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年 5月20日
協会本部広報専門委員会
場 所／協会本部会議室
対応者／芳野広報委員

平成27年 5月20日
広報部会
場 所／北陸支部会議室
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年 5月21日
大学PR活動
場 所／新潟大学工学部
対応者／樋浦情報委員長、佐々木広報部会長

平成27年 5月22日
講師派遣
派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会（ME）
派遣数／1名
内 容／平成27年度ME養成講座（防災）

平成27年 5月22日
技術部会委員長会議
場 所／北陸支部会議室
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年 5月22日
協会本部コンプライアンス委員会
場 所／協会本部会議室
出席者／西潟常夫委員

平成27年 5月26日
大学PR活動
場 所／新潟大学農学部
対応者／佐藤建設環境委員長

平成27年 5月28日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／2名

平成27年 5月28日
平成27年度「建設技術報告会」第1回実行委員会
場 所／新潟国道事務所
出席者／高橋広報委員長

平成27年 6月2日
総括部会・災害対策部会合同会議
場 所／北陸支部会議室
議 事／平成27年度事業計画等について

平成27年 6月2日～4日
平成27年度道路橋メンテナンス技術講習会 座学（本部共催）
場 所／新潟市内
内 容／サテライト講習
～本格的なメンテナンス技術の習得のために～
受講者／50名

平成27年 6月3日
平成27年度大規模津波防災総合訓練実行委員会（第2回）
場 所／北陸地方整備局
対応者／青木総括部会長、高橋技術総括指揮者

平成27年 6月3日～4日
第13回北陸道路舗装会議（実行委員会主催）
場 所／新潟市内
内 容／記念講演
「インフラ分野の国際協力と海外戦略」
（公社）土木学会国際センター
センター長代行 山川 朝生 氏
口頭報文発表 34編
ポスターセッション発表 22編
口頭報文発表 37編
ポスターセッション発表 22編
パネルディスカッション

平成27年 6月5日
平成27年度道路橋メンテナンス技術講習会 現地実習（本部共催）
場 所／新潟市内
内 容／現場における点検手法を実体験
（一般国道7号 阿賀野川大橋 下り）
講 師／北陸地方整備局道路部 飯野道路構造保全官
山田道路構造保全官
北陸技術事務所 古川技術情報管理官
若月維持管理技術第一係長
受講者／50名

平成27年 6月5日
広報部会会誌委員会
場 所／北陸支部会議室
議 事／会誌「雪の音」、会員名簿の原稿確認について

平成27年 6月5日
広報部会広報委員会
場 所／北陸支部会議室
議 事／社会貢献活動の実施計画について

平成27年 6月5日
業務・研究発表会打合せ会議
場 所／北陸支部会議室
議 事／業務・研究発表会の発表論文について

平成27年 6月13日
にいがた防災アクション2015 ふるまち防災フェスタ
場 所／新潟市内
内 容／パネル出展

平成27年 6 月15日
会誌「雪の音」Vol.124号発行
担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成27年 6 月15日
北陸支部会員名簿（平成27年 6 月）発行
担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成27年 6 月19日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会
場 所／富山河川国道事務所
出席者／吉田副支部長

平成27年 6 月21日
北陸支部石川事務所社会貢献活動
白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬一斉防除
場 所／白山国立公園
内 容／外来植物除去作業
参加者／104名

平成27年 6 月23日
平成27年度新潟県技術管理関係説明会
場 所／新潟市内
出席者／渡邊技術部会長、真嶋品質向上委員長、森品質向上
委員

平成27年 6 月23日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会新潟県部会
場 所／北陸地方整備局
出席者／中俣副支部長

平成27年 6 月23日
平成27年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会
場 所／北陸地方整備局
出席者／佐藤建設環境委員長

平成27年 6 月23日
第 4 回北陸若手技術者育成支援検討会
場 所／北陸地方整備局
出席者／竹内若手技術者WGリーダー
片岸若手技術者WGサブリーダー

平成27年 6 月23日
協会本部第 2 回災害時対応検討委員会
場 所／協会本部会議室
対応者／高橋技術総括指揮者

平成27年 6 月23日
平成27年度第 2 回役員会
場 所／新潟市内
議 題／協会本部定例運営会議等報告 他

平成27年 6 月25日
防災特別講演会（後援）
場 所／北陸地方整備局
内 容／講演「北陸地方の風土に刻された災害の宿命」
～環境防災学と風土工学の視座～
講師 環境防災研究所長 竹林 征三 氏

平成27年 6 月26日
平成27年度「北陸の建設技術」第 1 回編集委員会
場 所／高田河川国道事務所
議 題／平成26年度活動計画等について
出席者／齋藤会誌編集委員会委員

平成27年 7 月 1 日
講師派遣
派遣先／北陸地方整備局
派遣数／1 名
内 容／平成27年度道路構造物管理実務者
（橋梁初級Ⅰ）研修【西部】

平成27年 7 月 3 日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会
場 所／金沢河川国道事務所
出席者／新家副支部長

平成27年 7 月 6 日
けんせつフェア北陸 in 金沢2015第 2 回幹事会
場 所／新潟市内
出席者／松浦事務局長

平成27年 7 月 8 日
講師派遣
派遣先／北陸地方整備局
派遣数／1 名
内 容／平成27年度道路構造物管理実務者
（橋梁初級Ⅰ）研修【東部】

平成27年 7 月 8 日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第 2 回幹事会
場 所／北陸技術事務所
出席者／渡邊技術部会長

平成27年 7 月 8 日
協会本部第 1 回対活・白書合同委員会
場 所／協会本部会議室
出席者／横山白書委員

平成27年 7 月11日
北関川・姫川「7.11災害」20年メモリアルフォーラム
（協力）
場 所／上越市内・糸魚川市内
内 容／（上越会場）基調講演 東京大学大学院
小池 俊雄 教授
7.11水害ニュース映像放映
パネルディスカッション など
（糸魚川会場）基調講演 製作研究大学院大学
水山 高久 特任教授
7.11災害（土砂災害）記録映像放映
パネルディスカッション など

平成27年 7 月13日
北陸ブロック意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／北陸地方整備局 藤山局長 他10名
新潟県 小林技監 他 1 名
富山県 上坂建設技術企画課主幹
石川県 高田監理課技術管理室主幹
新潟市 樋山技術管理センター長 他 1 名
協会本部 長谷川会長 他12名
北陸支部 寺本支部長 他20名

平成27年 7月15日
新潟地域委員会
場 所／北陸支部会議室
議 題／平成27年度意見交換会等について

平成27年 7月21日
大学PR活動（1年生への学生説明会）
場 所／金沢大学
対応者／藤本道路委員

平成27年 7月22日
平成27年度 マネジメントセミナー（本部主催）
場 所／新潟市内
講 師／本部担当委員会委員
内 容／建設コンサルタントとマネジメント
PFI事業における建設コンサルタントの役割と今後の展望
CM業務の普及に向けて
建設コンサルタントに係る環境配慮の事例
リスクマネジメントを考慮したマネジメントシステムの効果的運用について
品質の確保・向上に向けて
参加者／国2名、県1名、政令市4名、会員等85名
計92名

平成27年 7月23日
講師派遣
派遣先／新潟県土木部
派遣数／1名
内 容／新潟県土木部研修
「道路施設の補修補強技術（橋梁編）」

平成27年 7月24日
出前講演（立山女性サロンの会）
場 所／富山市内
講 演／「東日本大震災における建コンの対応ならびに復興状況について」
講 師／大日本コンサルタント（株）
東北支社副社長 向田 昇 氏

平成27年 7月25日
技術部会若手技術者WG
場 所／支部事務局会議室
議 題／平成27年度事業計画等について

平成27年 7月27日
広報部会広報委員会
場 所／北陸支部会議室
議 事／社会貢献活動「親子で見学会」の実施について

平成27年 7月27日
広報部会会誌委員会
場 所／北陸支部会議室
議 事／会誌「雪の音」の発刊計画について

平成27年 7月28日
大学PR活動（2・3年生への学生説明会）
場 所／長岡技術科学大学
対応者／神田道路委員長、小見都市計画委員長

平成27年 7月28日
ほくりく防災・減災講座2015（後援）
場 所／新潟市内
講 演／講演1
消防広域応援体制について
新潟市消防局 警防課 課長補佐 本間 勝嘉 氏
講演2
大地に刻まれた巨大津波の痕跡を探る
新潟大学教育学部 准教授 高清水 康博 氏

平成27年 7月31日
補強土工法講習会および現地見学会（共催）
場 所／高岡市内及び富山河川国道事務所
内 容／講演
坂東立体化事業の概要
富山河川国道事務所 栗本 拓也 氏
補強土工法の最新情報
防衛大学校 宮田 喜壽 先生
坂東道路（交差点部）工事の施工監理
監理技術者 田中 和恵 氏（竹沢建設（株））
消防広域応援体制について
新潟市消防局 警防課 課長補佐 本間 勝嘉 氏
施工状況見学 一般国道8号 坂東立体化事業箇所

平成27年 8月3日
平成27年度大規模津波防災総合訓練「部会分全体会議」
場 所／聖籠町役場、新潟東港木材埠頭
対応者／青木総括部会長、高橋技術総括指揮者、佐々木広報部会長

平成27年 8月6日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第2回協議会
第3回幹事会
場 所／北陸技術事務所
出席者／渡邊技術部会長

平成27年 8月7日
新潟県新津地域整備部と建設業・協会との意見交換会
場 所／新潟県新津地域整備部
出席者／新津地域整備部 5名
建設業 6名
建設コンサルタンツ協会 6名

平成27年 8月7日
けんせつフェア北陸 in 金沢2015第2回実行委員会
場 所／新潟国道事務所
出席者／高橋広報委員長

平成27年 8月7日
建設コンサルタンツ協会北陸支部主催 業務・研究発表会
場 所／新潟市内
内 容／基調講演
北陸信越地方の道路ネットワーク整備
長岡技術科学大学大学院
都市交通研究室 佐野 可寸志 教授
業務・研究発表 8編
学生講演 2編

平成27年 8 月19日

第12回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／富山市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局 企画部

技術調整管理官 高島 和夫 氏

演題「最近の気象特性と防災気象情報の利用について」

講師 富山地方気象台

気象情報官 山田 勝俊 氏

平成27年 8 月20日

第12回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／金沢市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局 企画部

技術調整管理官 高島 和夫 氏

演題「最近の気象特性と防災気象情報の利用について」

講師 金沢地方気象台 予報官 小林 勝彦 氏

平成27年 8 月20日

広報部会広報委員会

場 所／北陸支部会議室

議 事／社会貢献活動「親子で見学会」の実施について

平成27年 8 月21日

第12回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／長野市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局

地方事業評価管理官 今野 和則 氏

演題「最近の気象特性と防災気象情報の利用について」

講師 長野地方気象台

気象情報官 佐藤 義之 氏

平成27年 8 月21日

道路・トンネル技術講習会

場 所／金沢市内

内 容／「道路の維持管理に関する最近の話題」

講師 国土交通省北陸地方整備局 道路部

道路保全企画官 川村 雅一 氏

「災害に強い道づくりのために
～防災ドクターから道路エンジニアへのメッセージ～」

講師 金沢工業大学 環境・建築学部

環境土木工学科 教授 川村 國夫 氏

平成27年 8 月22日

社会貢献活動「親子で見学会」

（共催：信濃川下流事務所、新潟国道事務所、新潟市）

（後援：新潟県、新潟商工会議所、新潟日報）

場 所／新潟市内

内 容／信濃川からみた「やすらぎ堤」「萬代橋」など（乗
船体験）

万代クロッシング（萬代橋のお話）

新潟日報メディアシップ20F（まちづくりのお話）

参加者／25名

平成27年 8 月23日

平成26年度ふるさと富山美化大作戦

場 所／富山市内

対応者／泉広報委員、大蔵広報委員

平成27年 8 月24日

講師派遣

派遣先／新潟県土木部

派遣数／1 名

内 容／新潟県土木部職員及び市町村職員合同研修

「橋梁Ⅲ（行政編）」

平成27年 8 月25日

平成27年度大規模津波防災総合訓練実行委員会（第3回）

場 所／新潟県庁

対応者／青木総括部会長、高橋技術総括指揮者

平成27年 8 月25日

第12回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／新潟市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局 企画部

技術開発調整官 倉重 毅 氏

演題「最近の気象特性と防災気象情報の利用について」

講師 新潟地方気象台

気象情報官 小谷内 浩 氏

平成27年 8 月28日

講師派遣

派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会（ME）

派遣数／1 名

内 容／平成27年度ME養成講座（構造）1 週目

平成27年 8 月28日～29日

「業界展望を考える若手技術者の会」北陸開催

場 所／金沢市内

内 容／1 部 グループ討議

1 近畿支部の活動報告

2 建コン将来ビジョンに関するグループワーク

3 グループ発表

4 全体討議

2 部 建コンワールドカフェ in KANAZAWA

～みんなの「しごと観」と建コンの未来～

（1）話題提供

（2）ワールドカフェによる意見交換

3 部 総括グループ討議

平成27年 8 月31日

講師派遣

派遣先／富山県土木部

派遣数／1 名

内 容／土木部技術職員研修（土木一般技術・中級）

平成27年 9 月 1 日

北陸支部防災訓練及び協会防災演習

場 所／北陸支部会議室

内 容／FAX及びメールによる情報伝達訓練

参加者／総括部会、災害対策部会

平成27年 9 月 2 日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県下越分科会

場 所／新潟国道事務所

出席者／若尾建設環境委員

平成27年9月3日
コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム
(後援)

場 所／金沢市内

内 容／・演題「断面修復について」
・演題「コンクリート剥落防止と塗膜型剥落防止システムについて」
・演題「コンクリートの劣化と補修工法選定の基本的な考え方」
・演題「亜硝酸リチウムを用いた塩害、中性化、ASRの補修技術について」
・演題「厳しい施工条件に対応可能な杭基礎工法～マイクロパイル技術～」

平成27年9月3日
「景観からの道づくり」講習会 in 新潟 (後援)

場 所／新潟市内

内 容／講演「景観からの道づくり」について
講師 東京大学アジア生物資源環境研究センター
堀 繁 教授

平成27年9月3日・4日

講師派遣

派遣先／北陸地方整備局

派遣数／2名

内 容／平成27年度点検エキスパート (トンネル初級) 研修

平成27年9月3日・4日

講師派遣

派遣先／(一財)新潟県建設技術センター

派遣数／7名

内 容／第8回けんせつセミナー2015「道路設計」

平成27年9月4日

講師派遣

派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会 (ME)

派遣数／1名

内 容／平成27年度ME養成講座 (構造) 2週目

平成27年9月8日

金沢河川国道事務所との意見交換会

場 所／金沢市内

出席者／金澤金沢河川国道事務所長 他13名

新家北陸支部副支部長 他19名

平成27年9月9日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県上越分科会

場 所／高田河川国道事務所

出席者／藤本建設環境委員

平成27年9月9日・10日

都市計画研修会

場 所／横浜市

内 容／勉強会 (横浜市の都市計画について)

現地見学会 (その1)

横浜市都市整備局企画部都市デザイン室長

綱河 功 氏

現地見学会 (その2)

横浜市都市整備局企画部都市デザイン室

桂 有生 氏

出席者／15名

平成27年9月10日・11日

河川研修会 (共催)

場 所／千曲川河川事務所管内

内 容／千曲川の自然環境について

国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ

傳田正利 主任研究員

千曲川における生態系に配慮した川づくりについて

1 千曲川中流域自然再生に取り組み

2 千曲川における伝統的治水工法

千曲河川事務所調査課 岩井 久 調査係長

現地検討会

長野県網島地先

長野県千曲市茂原地先

長野県坂城町鼠宿地先

出席者／15名

平成27年9月10日

平成27年度北陸防災連絡会議幹事会

場 所／北陸地方整備局

出席者／高田運営委員長、青木総括部会長

平成27年9月14日

講師派遣

派遣先／(一財)新潟県建設技術センター

派遣数／5名

内 容／第9回けんせつセミナー2015

「橋梁Ⅰ (下部工の設計・施工編)」

平成27年9月18日

講師派遣

派遣先／(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部

派遣数／2名

内 容／「わかりやすいPC橋の施工技術研究会」へのオブザーバー

平成27年9月18日

講師派遣

派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会 (ME)

派遣数／1名

内 容／平成27年度ME養成講座 (構造) 4週目

平成27年9月25日

講師派遣

派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会 (ME)

派遣数／1名

内 容／平成27年度ME養成講座 (構造) 5週目

平成27年9月28日

平成27年度第3会役員会

場 所／金沢市内

内 容／協会本部定例運営会議等報告 他

平成27年9月29日

協会本部第3回災害時対応検討委員会

場 所／協会本部会議室

出席者／高橋技術総括指揮者

平成27年9月29日

平成27年度大規模津波防災総合訓練防災展示機関説明会

場 所／新潟市内

出席者／今野広報委員

平成27年9月29日
独占禁止法等遵守に関する講習会（共催）
場 所／金沢市内
内 容／平成27年度独占禁止法等遵守に関する講習会
～最近の建設コンサルタントの現状～
（一社）建設コンサルタンツ協会
副会長 前川 秀和 氏
出席者／31会員49名

平成27年10月2日
新潟地域委員会
場 所／北陸支部会議室
内 容／意見交換会等について

平成27年10月2日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／1名
内 容／第10回けんせつセミナー2015
「橋梁Ⅱ（上部工の設計・施工編）」

平成27年10月2日
講師派遣
派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会（ME）
派遣数／1名
内 容／平成27年度ME養成講座（構造）6週目

平成27年10月4日
第26回土木フェスティバル（後援）
場 所／国営越後丘陵公園
内 容／屋外会場 緑の千畳敷
土木／防災用機械の展示・体験・実演
・排水ポンプ車・地震体験車・除雪車
・土砂災害体験装置・リフト車・バック
ホウなど
屋内会場 暖の館
土木／防災に関するパネル・模型などの展示

平成27年10月6日
大河津分水講演会（後援）
場 所／長岡市内
内 容／講演 信濃川の河川整備と大河津分水
－大河津資料館友の会の目指すもの－
早川 典生 氏
（NPO法人信濃川大河津資料館友の会理事長）
講演 河川技術と技術者の歩んだ道
－大河津分水工事を中心に－
高橋 裕 氏（東京大学 名誉教授）

平成27年10月7日
平成28年度砂防学会定時総会並びに研究発表会実行委員会
場 所／富山市内
出席者／吉田副支部長

平成27年10月7日
支部部会長会議
場 所／北陸支部会議室
内 容／平成28年度事業計画 他

平成27年10月7日・8日
講師派遣
派遣先／北陸地方整備局
派遣数／2名
内 容／平成27年度道路構造物管理実務者（橋梁初級Ⅱ）
研修

平成27年10月9日
道路・トンネル現場見学会
場 所／利賀ダム
内 容／付け替え道路及び関連施設見学 他
出席者／24名

平成27年10月14日
北陸土木コンクリート製品技術協会との意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／北陸土木コンクリート製品技術協会 10名
北陸支部道路・河川系技術者 12名

平成27年10月14日・16日
「多自然川づくり研修」新潟県主催
場 所／村上地域振興局管内 他

平成27年10月15日
北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県中越分科会
場 所／長岡国道事務所
出席者／高野総括部会員

平成27年10月15日
新潟県立新潟工業高校出前講座
場 所／新潟県立新潟工業高校

平成27年10月15日
会誌「雪の音」Vol.125号発刊
担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成27年10月16日
RCCM登録更新講習会
場 所／新潟市内
内 容／・各分野の技術課題と最近の動向
・建設コンサルタントの現状と諸課題
出席者／130名

平成27年10月16日・17日
けんせつフェア北陸 in 金沢2015
場 所／金沢市内
内 容／・出展総数158機関
（官公庁等8機関 学校4校 共催1団体
協賛関係3機関 民間企業142社）
・出展技術数271技術
・発表技術51技術（「安全・安心」41技術、「自然・文化」7技術、「連携・活力」3技術）
・けんせつ小町座談会

平成27年10月17日
第14回北信越現地ワークショップ in 富山（後援）
場 所／富山市内

平成27年10月19日
大学等へのPR活動
内 容／長岡高専環境都市工学科へ説明

平成27年10月19日
新潟県土木部との意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／新潟県 高橋土木部長 他11名
北陸支部 中俣新潟地域委員長 他13名

平成27年10月20日
品質セミナー“エラー防止のために”（本部主催）
場 所／新潟市内
講 師 本部技術委員会照査特別WG委員
内 容／種々の調査・設計分野に現れるエラー事例の紹介、
技術的分析、並びに照査の具体的改善について講義
参加者／国8名、県13名、政令市5名、会員58名、計84名

平成27年10月20日
北陸・管理技術者懇談会
場 所／北陸支部事務局会議室
出席者／北陸地方整備局 5名
北陸支部管理技術者 11名

平成27年10月23日
第1回新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会
場 所／新潟市内
出席者／近藤 治 委員、佐藤 洋子 委員、佐藤 恵
委員 3名
渡邊 敦 委員（オブザーバー）

平成27年10月23日
立山連邦の自然～ライチョウと立山の山岳環境～に関する技術講習会
場 所／富山市内
内 容／「立山のライチョウ」
富山雷鳥研究会 松田 勉 氏
富山県生活環境文化部 自然保護課野生生物係
主任 高橋 正樹 氏
「立山の山岳環境」
立山カルデラ砂防博物館
学芸課長 飯田 肇 氏

平成27年10月26日
防災講演会（後援）
場 所／新潟市内
内 容／講演「土砂災害の防災・減殺を目指して」
大野 宏之 氏
（前国土交通省水管理・国土保全 砂防部長）

平成27年10月27日
北陸防災連絡会議幹事会
場 所／北陸地方整備局
出席者／高田運営委員長

平成27年10月30日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会 第4回幹事会
場 所／長岡技術科学大学
出席者／渡邊技術部会長

平成27年10月30日
第31回雪シンポジウム in 小千谷（後援）
場 所／小千谷市内
内 容／基調講演
講師 （一社）雪国観光圏
代表 井口 智裕 氏
テーマ「100年後も雪国であるために」
パネルディスカッション
第1セッション
テーマ「安全で快適な雪国の生活を目指して」
第2セッション
テーマ「雪国の魅力を活かした地域活性化とは」

平成27年10月30日
協会本部第3回維持管理対策特別WG
場 所／弘済会館
出席者／高橋技術総括指揮者

平成27年10月31日
新潟県立新潟工業高校生徒保護者との意見交換会
場 所／北陸地方整備局
内 容／六郷堤防浸透対策工事 他2カ所

平成27年11月4日
平成27年度第4回役員会
場 所／新潟市内
内 容／協会本部定例運営会議等報告

平成27年11月4日
北陸地方整備局との意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／北陸地方整備局 小口企画部長 他6名
北陸支部 寺本支部長 他20名

平成27年11月4日・5日
多自然川づくり北陸ブロック担当者会議（共催）
場 所／新潟市内
内 容／分科会 基調講演 講評 表彰
【基調講演】
名古屋大学助教 尾花 まき子 氏

平成27年11月7日
平成27年度大規模津波防災総合訓練（北陸防災連絡会議主催）
場 所／新潟東港 他
出席者／寺本支部長 他

平成27年11月9日
新潟市との意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／新潟市 大沢土木部長 他13名
北陸支部 中俣新潟地域委員長 他13名

平成27年11月11日
まちづくりセミナー
場 所／長岡市内
内 容／「まちなか再生・町中居住」長岡市中心市街地の
現状と課題
講師 長岡科学技術大学大学院
樋口 秀 准教授
出席者／15名

平成27年11月12日
北陸支部PR動画製作打合せ

場 所／支部事務局
出席者／製作会社 (株) アドプロダクションエム
北陸支部 渡邊技術部会長、竹内若手技術者WG
リーダー
松浦事務局長

平成27年11月13日
Made in 新潟 (土木・建築) 新技術展示・発表会 (共催)

場 所／新潟市内
内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介
参加者／339名

平成27年11月13日
第3回インフラ再生技術者育成新潟地域協議会 第3回協議会

場 所／北陸技術事務所
出席者／寺本支部長 渡邊技術部会長

平成27年11月13日
講師派遣

派遣先／(一財) 新潟県建設技術センター
派遣数／1名
内 容／第14回けんせつセミナー2015
「コンクリート構造物の維持管理 (新潟会場)」

平成27年11月16日
政治経済講演会 (後援)

場 所／新潟市内
内 容／地域経済の自立・発展に必要なビジネス視点
講師 伊藤 聡子 氏
(事業創造大学院大学客員教授)

平成27年11月16日・17日
第30回北陸雪氷シンポジウム in 新潟

場 所／新潟市内
内 容／基調講演
「近年雪崩災害が変わってきたと思いませんか」
～これまでの調査からわかったこと～
講師 新潟大学災害・復興科学研究所
所長・教授 和泉 薫 氏

平成27年11月17日
CIMの動向と関連情報講習会 (本部主催)

場 所／新潟市内
内 容／CIMの動向と関連情報
OCFの活動
Open CIM Foyumの照会

平成27年11月18日
平成27年度建設技術報告会

場 所／新潟市内
内 容／基調講演
「防災技術への期待～環日本海防災拠点構想～」
新潟大学 危機管理本部 危機管理室
教授 田村 圭子 氏
報告技術 31技術
技術パネル等展示 33技術

平成27年11月20日
広報部会会誌委員会

場 所／北陸支部会議室
議 事／会誌「雪の音」の発刊計画について

平成27年11月24日
講師派遣

派遣先／(一財) 新潟県建設技術センター
派遣数／1名
内 容／第15回けんせつセミナー2015
「コンクリート構造物の維持管理 (上越会場)」

平成27年11月24日
橋梁技術講演会

場 所／新潟市内
内 容／講演1: 「アメリカの維持管理設計法LRFR」
長岡技術科学大学
名誉教授 長井 正嗣氏
講演2: 「NEXCOが管理する高速道路における
大規模更新・修繕計画の概要」
東日本高速道路 (株) 技術・環境部
構造技術課 課長 本間 淳史 氏
講演3: 「最近の鉄筋コンクリートの床版の損傷
事例と調査」
中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋 (株)
道路技術部 担当部長 橘 吉宏 氏

参加者／101名

平成27年11月25日
平成27年度北陸防災連絡会議

場 所／新潟市内
出席者／寺本支部長

平成27年11月25日
新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会 維持管理検討部会

場 所／新潟市内
出席者／近藤 治 委員、佐藤 洋子 委員 2名

平成27年11月25日
富山県景観づくりフォーラム2015 (後援)

場 所／富山市内

平成27年11月26日
全国事務局長会議

場 所／協会本部会議室
議 事／協会本部活動状況等について 他
出席者／松浦事務局長

平成27年11月26日
大学等へのPR活動

内 容／富山大学へ説明
対応者／渡辺橋梁委員長、高橋環境委員

平成27年11月27日
土工構造物の防災を考える技術セミナー（後援）
場 所／新潟市内
内 容／講演 道路土工構造物技術基準の制定
講師 国土交通省道路局国道・防災課
道路防災対策企画専門官
志々田 武幸 氏
講演 新潟地方の道路防災の現在と将来（仮）
講師 国土交通省北陸地方整備局 道路部
道路調査官 小山 浩徳 氏
土工構造物の防災に向けて
1. 技術基準に係る事項
1.1 性能評価 大阪大学 常田 賢一 氏
1.2 地震動 大阪大学 秦 吉弥 氏
1.3 要求性能と設計・施工・維持管理
岐阜大学 原 隆史 氏
1.4 地下水位と排水
近畿大学 河井 克之 氏
2. 技術基準を契機とした研究開発の方向
大阪大学 常田 賢一 氏

平成27年12月3日
平成27年度第5回役員会
場 所／新潟市内
議 事／協会本部定例運営会議等報告 他

平成27年12月3日
総括部会・災害対策部会合同会議
場 所／新潟市内
議 事／災害時演習報告と今後の対応について 他

平成27年12月3日
技術部会委員長会議
場 所／新潟市内
議 事／平成27年度の報告と平成28年度計画について 他

平成27年12月3日
広報部会
場 所／新潟市内
議 事／平成27年度の報告と平成28年度計画について 他

平成27年12月3日
独占禁止法の遵守に関する特別部会
場 所／新潟市内
議 事／平成27年度講習会の開催について 他

平成27年12月3日
本部前川副会長講演会
場 所／新潟市内
演 題／「建設コンサルタントを巡る課題と今後の方向」
（一社）建設コンサルタンツ協会
副会長 前川 秀和 氏
参加者／105名

平成27年12月3日
橋梁現場見学会
場 所／燕市
内 容／一般国道289号 燕北バイパス
（仮称）朝日大橋トラベラーク架設
出席者／38名

平成27年12月4日
新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会 包括的
契約検討部会
場 所／新潟市内
出席者／渡邊 敦 委員、佐藤 恵 委員 2名

平成27年12月4日
第2回ME養成講座シンポジウム
（インフラ再生技術者育成新潟地域協議会主催）
場 所／新潟市内
内 容／特別講演1
「社会資本の維持管理～道路メンテナンス総力戦」
木村 嘉子富 氏
特別講演2
「新潟県市町村の橋梁維持管理の合理化に向けて」
長井 宏平 氏
ME要請講座 実施報告
ME要請講座 受講体験発表
ME要請講座1期生の活動内容発表
認定証授与

平成27年12月7日
大学等へのPR活動
内 容／長岡高等専門学校へ説明
対応者／涌井河川及び砂防委員長、真嶋品質向上委員長

平成27年12月14日
けんせつフェア北陸 in 金沢2015第3回実行員会・幹事
会合同会議
場 所／北陸地方整備局
出席者／高橋広報委員長 松浦事務局長

平成27年12月15日・16日
河川堤防開削に伴う現地検討会
場 所／福島県
内 容／山崎排水樋管改築工事に関する概要説明・現地検
討会 他
出席者／16名

平成27年12月16日
講師派遣
派遣先／（一社）プレストレスト・コンクリート建設業協会
派遣数／2名

平成27年12月17日
北陸地方建設事業推進協議会新施策促進普及部会
場 所／北陸地方整備局
出席者／渡邊技術部会長

平成27年12月17日
北陸地方建設事業推進協議会工事施工対策部会
場 所／北陸地方整備局
出席者／神田道路委員長

平成27年12月18日
北陸地方建設事業推進協議会建設情報広報部会
場 所／北陸地方整備局
出席者／高橋広報委員長

平成27年12月21日
産学官連携による建設界の担い手確保のための説明会
主 催／金沢河川国道事務所、金沢大学、各建設関係協会
場 所／金沢大学
受講生／約60名
内 容／建設の仕事（公務員・測量・コンサル・建設）すべて見せます
－能越自動車道七尾氷見道路事業を例に－
講師 各団体代表者

平成27年12月22日
出張PR活動
共 催／新潟県、新潟県建設業協会新津支部、建設コンサルタンツ協会北陸支部
場 所／五泉北中学校
出席者／佐藤 洋子 委員

平成28年 1 月18日
出張PR活動
共 催／新潟県、新潟県建設業協会新津支部、建設コンサルタンツ協会北陸支部
場 所／新津高等学校
出席者／佐藤 恵 委員

平成28年 1 月19日
平成27年度「防災とボランティア週間」講演会（後援）
場 所／新潟市内
内 容／講演 1
「最近の大規模災害について 鬼怒川破堤対応を中心に」
北陸地方整備局 企画部環境調整官
上原 信司 氏
講演 2
「防災とボランティアに若者・女性を巻き込むには？」
講師 田中 美咲 氏／長島 あさこ 氏
（一般財団法人防災ガール代表理事／同新潟メンバー）

平成28年 1 月20日
平成27年度「建設技術報告会」第 2 回実行委員会
場 所／新潟国道事務所
出席者／高橋広報委員長

平成28年 1 月21日
Made in 新潟（土木・建築）説明会 in 上中下越（共催）
場 所／新潟市内
内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成28年 1 月22日
Made in 新潟（土木・建築）説明会 in 中越（共催）
場 所／長岡市内
内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成28年 1 月28日
Made in 新潟（土木・建築）説明会 in 上中下越（共催）
場 所／長岡市内
内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介
参加者／130名

平成28年 1 月28日
出張PR活動
共 催／新潟県、新潟県建設業協会新津支部、建設コンサルタンツ協会北陸支部
場 所／五泉中学校
出席者／佐藤 恵 委員

平成28年 2 月 1 日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会
場 所／富山河川国道事務所
出席者／吉田副支部長

平成28年 2 月 1 日
大学等へのPR活動
内 容／長岡技術科学大学
対応者／神田道路委員長、小見都市計画委員長

平成28年 2 月 2 日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会新潟県部会
場 所／北陸地方整備局
出席者／中俣副支部長

平成28年 2 月 4 日
Made in 新潟（土木・建築）説明会 in 上中下越（共催）
場 所／上越市内
内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成28年 2 月 8 日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会 第 5 回幹事会
場 所／北陸技術事務所
出席者／渡邊技術部会長

平成28年 2 月 9 日
にいがた雪崩防災講演会（にいがた雪崩防災研究会主催）
場 所／新潟市内
内 容／基調講演
雪崩対策の現状と今後の課題
特定非営利活動法人なだれ防災技術フォーラム
理事長 下村 忠一 氏
講演
雪崩災害の実態と最近の調査・研究
国立研究開発法人土木研究所
雪崩・地すべり研究センター
センター長・上席研究員 石田 孝司 氏
林業分野におけるなだれ対策の取組と発生状況
新潟県農林水産部治山課
主任 佐久間 聖 氏
集落雪崩対策事業の取組
新潟県土木部砂防課 主査 瀬川 顕太 氏

平成28年 2 月15日
会誌「雪の音」Vol.126号発刊
担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成28年 2 月17日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会
場 所／金沢河川国道事務所
出席者／新家副支部長

平成28年2月17日
大学等へのPR活動
内 容／金沢大学
対応者／今度トンネル委員長、麻田トンネル委員

平成28年2月17日
第13回社会資本整備セミナー（共催）
場 所／新潟市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局
地方事業評価管理官 今野 和則 氏
演題「新潟地域の地震・津波環境について」
講師 新潟大学 災害・復興科学研究所
複合・連動災害研究部門
准教授 ト部 厚志 氏

平成28年2月22日
新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会 維持管理検討部会
場 所／新潟市内
出席者／近藤 治 委員、佐藤 洋子 委員 2名

平成28年2月22日
平成27年度第6回役員会
場 所／新潟市内
議 事／協会本部定例運営会議等報告 他

平成28年2月22日
協会本部との意見交換会
場 所／新潟市内
議 事／平成28年度要望と提案について 他

平成28年2月22日
第13回社会資本整備セミナー（共催）
場 所／富山市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 企画部
技術調整管理官 高島 和夫 氏
演題「富山地域の地震・津波環境について」
講師 新潟大学 災害・復興科学研究所
複合・連動災害研究部門
准教授 ト部 厚志 氏

平成28年2月23日
第13回社会資本整備セミナー（共催）
場 所／金沢市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 企画部
技術調整管理官 高島 和夫 氏
演題「石川地域の地震・津波環境について」
講師 新潟大学 災害・復興科学研究所
複合・連動災害研究部門
准教授 ト部 厚志 氏

平成28年2月24日
第13回社会資本整備セミナー（共催）
場 所／長野市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 企画部
技術開発調整官 倉重 毅 氏
演題「長野地域の地震・津波環境について」
講師 新潟大学 災害・復興科学研究所
複合・連動災害研究部門
准教授 ト部 厚志 氏

平成28年2月24日
独占禁止法等遵守に関する講習会
場 所／新潟市内
講 演／片務性と発注者との関わりについて
北陸支部副支部長 中俣 孝 氏
独占禁止法を主とした法律説明
平山勝也法律事務所 弁護士 平山 勝也 氏
参加者／84名

平成28年2月26日
北陸防災連絡会議幹事会
場 所／北陸地方整備局
出席者／高田運営委員長、青木総括部会長

平成28年3月2日
新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会 包括的契約検討部会
場 所／新潟市内
出席者／渡邊 敦 委員、佐藤 恵 委員 2名

平成28年3月7日
富山県土木部との意見交換会
場 所／富山市内
出席者／新富山県土木部 加藤次長 他
北陸支部 吉田富山地域委員長 他

平成28年3月7日
第2回新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会
場 所／新潟市内
出席者／近藤 治 委員、佐藤 洋子 委員、佐藤 恵 委員 3名
渡邊 敦 委員（オブザーバー）

平成28年3月7日
新潟大学工学部との意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／新潟大学 阿部教授、佐伯教授
高田運営委員長、青木総括部会長、渡邊技術部会長、佐々木広報部会長、松浦事務局長

平成28年3月14日
北陸ICT戦略委員会
場 所／北陸地方整備局
出席者／渡邊技術部会長

平成28年3月16日
出張PR活動
（共催：新潟県、新潟県建設業協会新津支部、建設コンサルタンツ協会北陸支部）
場 所／川東中学校
出席者／榊原委員

平成28年3月24日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会
場 所／北陸地方整備局
出席者／寺本支部長

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

会 員 名 簿

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	北陸空情支社	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アスコ大東	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		921-8116 金沢市泉野出町2-1-1	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
応用地質(株)	新潟支店	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 ブレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山4-19-13 ハイムオカザキ	025-248-2205 025-248-2206

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)計画情報研究所		920-0025 金沢市駅西本町2-10-6	076-223-5445 076-223-4144
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)建設技術センター	新潟営業所	950-0028 新潟市東区小金台9-9 202号室	025-250-8002 025-250-8004
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 ブレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)新日本コンサルタント		930-0142 富山市吉作910-1	076-436-2111 076-436-3050
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0175 富山市願海寺633	076-436-7855 076-436-6030
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
館下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)中部コンサルタント		933-0866 高岡市清水町3-5-9	0766-21-4536 0766-22-4370
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナイン8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曽根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁214	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区綱川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山3-1-63	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0353 金沢市赤土町ト95-1	076-268-1206 076-268-1207
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8 東大通野村ビル	025-244-2503 025-244-2573
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社)北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財)新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

各部会・委員会委員名簿

北 陸 支 部 役 員			
	役 職	氏 名	所 属
	顧 問	藤 卷 俊 二	開発技建(株)
支部理事	支部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
支部理事	副支部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	副支部長	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
〃	副支部長	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
〃	運営委員長	高 田 一 博	開発技建(株)
〃	運営委員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	涌 井 正 樹	(株)キタック
〃	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	大 川 重 雄	(株)建設技術研究所
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
支部監事	支部監事	高 堂 景 寿	相互技術(株)
〃	支部監事	吉 楽 雅 博	大原技術(株)

独 占 禁 止 法 の 遵 守 に 関 する 特 別 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会員	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
	部会員	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
	部会員	齋 藤 真 晴	開発技建(株)
	部会員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
	部会員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
	部会員	西 潟 常 夫	(株)キタック

対 外 活 動 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会員	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
	部会員	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
	部会員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	矢 田 弘	(株)東京建設コンサルタント
	部会員	目 黒 信 雄	(株)建設技術研究所
	部会員 幹事	坂 上 悟	開発技建(株)

新潟地域委員会	委員長	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
〃	委 員	山 岸 守	開発技建(株)
〃	委 員	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)
〃	委 員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	委 員	大 塚 明	エヌシーイー(株)
〃	委 員	折 笠 昇	(株)開発技術コンサルタント
富山地域委員会	委員長	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 田 勉	(株)上智
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	栄 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	高 嶋 智 晴	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

総 括 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
	部会員	佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
	部会員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
	部会員	浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
	部会員	西 潟 常 夫	(株)キタック
	部会員	清 原 宏 二	開発技建(株)
	部会員	高 野 一 博	大原技術(株)

技 術 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
道路委員会	委員長	神 田 和 久	開発技建(株)
〃	委 員	木 村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	首 藤 直 樹	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	木 下 裕 康	(株)国土開発センター
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計
〃	委 員	池 淵 稔	東京コンサルタンツ(株)
橋梁委員会	委員長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	近 藤 治	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
〃	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	小 原 隆 一	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント

河川及び砂防委員会	委員長	涌 井 正 樹	(株)キタック
〃	委 員	永 矢 貴 之	(株)建設技術研究所
〃	委 員	亀 田 満	(株)国土開発センター
〃	委 員	佐 藤 裕 司	五大開発(株)
〃	委 員	岡 田 和 美	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	須 田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委 員	木 村 幸 雄	開発技建(株)
〃	委 員	金 子 幸 生	相互技術(株)
トンネル委員会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	平 野 吉 彦	(株)キタック
〃	委 員	雪 田 真 吾	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	佐 藤 吉 一	開発技建(株)
〃	委 員	莊 司 洋 文	(株)キタック
〃	委 員	新田川 貴 之	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	佐 藤 朗	開発技建(株)
〃	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	高 橋 靖	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	西 暢 人	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	藤 本 隆 則	(株)キタック
〃	委 員	平 野 博 範	(株)国土開発センター
品質向上委員会	委員長	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
〃	委 員	伊 藤 信 哉	開発技建(株)
〃	委 員	森 将 恒	(株)キタック
〃	委 員	西 村 治	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	若 林 修	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	野 村 尚 樹	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	山 森 茂 明	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋 浦 慎	開発技建(株)
〃	委 員	内 山 徹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	島 健	(株)キタック
〃	委 員	大 関 一 成	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	兼 政 孝 臣	(株)国土開発センター

若手技術者ワーキンググループ	リーダー	竹 内 聡	開発技建(株)
〃	サブリーダー	片 岸 将 広	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	七 郎 丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	委 員	伊 藤 裕 章	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	松 尾 内 助	(株)キタック
〃	委 員	新 郷 恭 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	山 田 知 広	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	榑 原 稔	(株)建設技術研究所
〃	委 員	福 崎 正 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	青 木 隆 幸	相互技術(株)
〃	委 員	佐 藤 洋 子	(株)構造技研新潟
〃	委 員	佐 藤 恵	相互技術(株)

広 報 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント
広報委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	瀧 上 彰	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	芳 野 夏 輔	(株)建設技術研究所
〃	委 員	新 川 行 男	(株)国土開発センター
〃	委 員	梶 原 亘	パシフィックコンサルタンツ(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
会誌編集委員会	委員長	須 藤 勝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	猪 俣 孝 之	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
〃	委 員	熊 倉 孝 次	(株)クリエイトセンター

災 害 対 策 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	木 村 幸 雄	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	副責任者	林 達 夫	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター

編集後記

4月14日、21時26分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震（前震）が発生しました。続く28時間後の4月16日、1時25分頃、同地方を震源とするマグニチュード7.3（本震）が発生。活断層型地震でマグニチュード6.5以上の地震の後でさらに大きな地震が発生するのは地震観測が始まって以降（明治18年）初めてのケースで、中越地震と同じ最大震度7を2回観測しました。被害は死者49名・関連死19名（5/14現在）、住宅全壊2,487棟（5/6現在）など甚大な被害となりました。

5月17日に熊本地震対応の平成28年度補正予算が成立するなど、復興に向けて動き始めている中、被災された方に私にできる支援は、熊本地方の経済をまわすことではないかと考えています。熊本地方の名産品を買ったり、飲食店では熊本産の焼酎を飲んだりしたいと思います。また、普段の買い物の際にレジ横にある募金箱に募金をするなど、微力ながら熊本地方の復興に貢献して行きたいです。

最後になりましたが、「平成28年熊本地震」で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

齋藤浩幸

発 行 / 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長 / 須藤勝彦

委 員 / 齋藤浩幸 猪俣孝之 熊倉孝次



発 行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371
<http://hr-jcca.jp/>